

平成 25 年度事業報告書

I 法人の概況

- 設立年月日 昭和 61 年 8 月 7 日
- 定款に定める目的

本会は、組込みシステム(組込みソフトウェアを含めた組込みシステム技術をいう。以下同じ。)における応用技術に関する調査研究、標準化の推進、普及及び啓発等を行うことにより、組込みシステム技術の高度化及び効率化を図り、もって我が国の産業の健全な発展と国民生活の向上に寄与することを目的とする。

- 定款に定める事業内容

- 組込みシステム応用技術に関する品質、生産性、信頼性、セキュリティ等に関する技術開発及び標準化の推進
- 組込みシステム技術に関する人材育成、地域振興及び国際交流の推進
- 組込みシステムに係る技術・環境・経営及び貿易・投資に関する調査研究並びに情報の提供
- 組込みシステム技術などに関する内外関係機関との情報交流及び連携の推進
- 組込みシステム応用技術の普及啓発
- 本会の会員に対する福利厚生に関する事業の推進
- その他本会の目的を達成するために必要な事業

- 日本標準産業分類

G3912 組込みソフトウェア業

- 会員の状況

平成 26 年 3 月 31 日現在

	当期末	前期末	前期末比増減
正会員	179 社	184 社	△5 社
賛助会員	33 社	31 社	2 社
合計	212 社	215 社	△3 社

- 主たる事務所、支部の状況

(主たる事務所)東京都中央区日本橋浜町 1-8-12 東実年金会館 8 階

(支部)

北海道支部 北海道札幌市中央区北 2 条西 3 丁目-1-16 57 山京ビル 2 階

東北支部 宮城県仙台市宮城野区銀杏町 31-24 東杜シーテック(株)内

東京支部 東京都中央区日本橋浜町 1-8-12 東実年金会館 8 階

中部支部 愛知県名古屋市東区東桜 2-2-1 高岳パークビル 萩原電機(株)内

北陸支部 福井県福井市川合鷺塚町 61 字北稻田 10 (社)福井県情報システム工業会内

近畿支部 大阪府大阪市西区鞠本町 1-8-4 (財)大阪科学技術センター内

7. 役員に関する事項

別紙のとおり

8. 職員に関する事項

平成 26 年 3 月 31 日現在

職員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
4 名	1 名	47.3 歳	9 年

9. 許認可に関する事項

特になし

<別紙>

一般社団法人 組込みシステム技術協会 役員・顧問

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

(役職)	(支部)	(氏名)	(常勤・非常勤)	(会社名等)
会長	東京	築田 稔	非常勤	(株)コア
副会長	東京	長谷川 恵三	非常勤	(株)セントラル情報センター
専務理事	(員外)	門田 浩	常勤	組込みシステム技術協会
理事	東京	塚田 英貴	非常勤	(株)エヌデーデー
理事	東京	藤木 優	非常勤	(株)ブライセン
理事	近畿	杉本 浩	非常勤	スキルインフォメーションズ(株)
理事	東京	漆原 憲博	非常勤	(株)ジェーエフピー
理事	北海道	中野 隆司	非常勤	(株)北斗電子
理事	東北	佐々木 賢一	非常勤	トライポッドワークス(株)
理事	東北	本田 光正	非常勤	東杜シーテック(株)
理事	東京	大橋 憲司	非常勤	(株)エンベックス
理事	東京	田中 晃	非常勤	アントールシステムサポート
理事	東京	竹岡 尚三	非常勤	(株)アックス
理事	東京	中村 憲一	非常勤	アップウインドテクノロジー・インコーポレイテッド
理事	東京	廣田 豊	非常勤	TDI プロダクトソリューション(株)
理事	東京	小西 誠治	非常勤	(株)Sohwa&Sophia Technologies
理事	東京	加賀谷 龍一	非常勤	(株)ビッツ
理事	東京	下山 到	非常勤	日本ノーベル(株)
理事	中部	脇田 周爾	非常勤	(株)ヴィッツ
理事	中部	青木 義彦	非常勤	(株)サンテック
理事	中部	萩原 義昭	非常勤	萩原電気(株)
理事	北陸	進藤 哲次	非常勤	(株)ネスティ
理事	近畿	奥 講三	非常勤	シグマ電子工業(株)
理事	近畿	竹内 嘉一	非常勤	(株)日新システムズ
理事	近畿	松本 浩樹	非常勤	(株)コミュニケーション・テクノロジー
理事	九州	西 哲郎	非常勤	西日本コンピュータ(株)
理事	(員外)	鈴木 龍一	常勤	組込みシステム技術協会
理事	(員外)	飯塚 悅功	非常勤	東京大学
理事	(員外)	原田 晃	非常勤	東京都立産業技術研究センター
理事	(員外)	福田 晃	非常勤	九州大学
監事	近畿	小幡 忠信	非常勤	アルカディアシステムズ(株)
監事	(員外)	小森谷 豊	非常勤	税理士法人レインボーワークス
名誉顧問		種村 良平	非常勤	(株)コア
顧問		松尾 隆徳	非常勤	東洋電機(株)
技術顧問		崎詰 素之	非常勤	
参与	(員外)	大原 茂之	非常勤	
参与	(員外)	中島 達夫	非常勤	早稲田大学
参与	(員外)	兼本 茂	非常勤	会津大学
参与	(員外)	星 光行	非常勤	(株)クナイ
参与	(員外)	清水 徹	非常勤	ルネサスエレクトロニクス(株)

理事:30 人(内訳:会長 1 人、副会長 1 人、専務理事 1 人、理事 27 人)

監事:2 人 顧問:3 人 参与:5 人

II 総括

平成 25 年度の国内景気は、円安・株高が進み、政府の経済施策も相まって、緩やかな回復基調となっている。一方、組込みシステム業界では受注環境の回復の遅れより、一部を除いては未だ改善とは言えない状況が継続している。

このような環境のもと、組込みシステム技術協会は、我が国の産業基盤を支える技術を代表する団体として、組込み技術の調査研究、普及啓発及び人材育成、更には新たなビジネスの創設イベントやグローバル化への対応と幅広い活動を展開した。

運営本部、国際委員会では、恒例となった JASA グローバルフォーラム、国際化推進ワークショップと盛大に開催することができた。また、協業推進委員会は、地域活性化を目的とした北海道支部、九州支部での協業セミナーの開催と、(社)コンピュータソフトウェア協会(CSAJ)との共同開催によるアライアンスビジネス交流会と活発な活動実績を残すことが出来た。

教育事業本部、ETEC 企画委員会では、これまでのクラス2試験の上位試験であるクラス 1 の開発に着手し、平成 26 年度後半にはリリース出来る見込みとなった。一方、研修委員会では、金沢工業大学と北陸先端科学技術大学院大学との合同プロジェクト(実践型高度組込み人材育成プロジェクト)にて産業側の立場で参画し、活動を進めている。また ET ロボコン実行委員会では、全国 363 チーム、2050 人と過去最高のチーム数と参加者を得て、11 地区での予選会における各地域経済産業局から局長賞やチャンピオンシップ大会での IPA 賞、情報処理学会賞の寄贈を頂き、例年には盛り上がりを見せた。

技術本部活動では組込み技術の高度化を目指し、それぞれの委員会が活発な調査研究活動を行い、5 月にはオープンセミナーの開催と、恒例となった ET2013 セミナー会場にて成果発表会を実施した。活動成果として特筆すべきは、プラットフォーム研究会における活動で、ロボットの制御プログラムの実装仕様を標準化するプラットフォーム OpenEL™ で、Ver 1.0 の仕様を公開し、世界に向けての情報発信を開始した。これは更に拡大するロボット市場において新たな潮流となる可能性を秘めている。

当協会の普及啓発事業の柱である組込み総合技術展 ET2013 も、前年同様に LSI 設計製造技術展である EDS フェアと同時開催し、来場者数こそ昨年を下回る結果(労働組合の休日と重なるアクシデントあり)となつたが、出展社 403 社、小間数 813 小間と昨年を上回る規模で実施することが出来た。新 ET アワードも成長 6 分野を対象に 43 件の応募があるなど組込みシステム技術の評価ブランドとして定着しつつある。

平成 25 年度重点事業項目

1. 組込み技術の調査研究活動の推進と研究成果の情報発信
2. 協業力の強化推進
3. 国際化推進
4. 組込みソフトウェア技術者試験(ETEC)の普及拡大

5. ET 展示会の拡充
6. 関連団体との情報交換及び連携事業推進
7. 会員の増強

III 会務の概況

1. 総会

社員総会(第 27 回)平成 25 年 6 月 20 日(木) 品川プリンスホテルにて以下に示す議案が諮られ、承認可決された。

<決議事項>

- 第 1 号議案 平成 24 年度事業報告書(案)承認の件
- 第 2 号議案 平成 24 年度財務諸表(案)承認の件
- 第 3 号議案 平成 24 年度公益目的支出計画実施報告の件
- 第 4 号議案 員外役員の報酬支給に関する定款変更承認の件

- 第 5 号議案 員外役員報酬総額承認の件

- 第 6 号議案 理事の定数変更に関する定款変更承認の件

- 第 7 号議案 入会金の改定承認の件

- 第 8 号議案 平成 25 年度、平成 26 年度役員選任の件

<報告事項>

- 1. 平成 25 年度事業計画書
- 2. 平成 25 年度収支予算書(正味財産増減計算書ベース)

理事会

平成 25 年 5 月 23 日から平成 26 年 3 月 20 日にわたり、計 5 回の理事会を開催した。

➤ 第 171 回理事会

平成 25 年 5 月 23 日(木) 於 東実年金会館 4 階大会議室

議事

- | | |
|---------------------------------|------|
| (1) 平成 24 年度事業報告書(案) | 【審議】 |
| (2) 平成 24 年度財務諸表(案) | 【審議】 |
| (3) 平成 24 年度公益目的支出計画実施報告(案) | 【審議】 |
| (4) 平成 25 年度、平成 26 年度役員の候補者選任の件 | 【審議】 |
| (5) 定款変更の件 | 【報告】 |
| ① 員外役員の報酬支給の件 | |
| ② 理事の定数変更の件 | |
| (6) 新入会員の承認 | 【審議】 |
| (7) その他 | |
| ① 入会金規程の変更について | 【審議】 |

- | | |
|------------------|------|
| ② 経理規程の変更について | 【審議】 |
| ③ 本部規程の新設について | 【審議】 |
| ④ 後援/協賛等受諾行事について | 【報告】 |

➢ 第 172 回理事会

平成 25 年 6 月 20 日(木) 於 品川プリンスホテル

議事

- | | |
|----------------------|------|
| 第 1 号議案 新入会員承認の件 | 【審議】 |
| 第 2 号議案 社員総会資料一式のご確認 | 【確認】 |

➢ 第 173 回理事会

平成 25 年 9 月 19 日(木) 於 東実年金会館 4 階大会議室

議事

- | | |
|----------------------------------|------|
| (1) 各事業本部報告 | 【報告】 |
| ・運営本部、教育事業本部、技術本部、ET 事業本部、支部統括本部 | |
| (2) 各支部活動報告 | 【報告】 |
| ・北海道・東北・東京・中部・北陸・近畿・九州 | |
| (3) 新入会員企業の承認について | 【審議】 |
| (4) 役付き役員の承認について | 【審議】 |
| (5) 参与の選任について | 【審議】 |
| (6) その他 | |
| ・平成 25 年度上期、中小企業人材確保推進事業状況 | 【報告】 |
| ・後援、協賛等受諾の報告 | 【報告】 |
| ・役員関連行事日程表(平成 25 年度下期、26 年度上期) | 【協議】 |

➢ 第 174 回理事会

平成 25 年 12 月 14 日(水) 於ロイヤルパークホテル水天宮 4 階

議事

- | | |
|------------------------------------|------|
| (1) 各事業本部活動報告 | 【報告】 |
| ・運営本部、教育事業本部、技術本部、ET 事業本部 | |
| (2) 各支部活動報告 | 【報告】 |
| ・北海道・東北・東京・中部・北陸・近畿・九州 | |
| (3) 新入会員企業の承認について | 【審議】 |
| (4) 平成 25 年度上期収支状況 | 【報告】 |
| (5) その他 | |
| ① 平成 26 年度事業計画及び予算計画の作成のお願い | |
| ② 高齢者雇用推進事業活動の報告 | |
| ③ 後援・協賛等受諾報告 | |
| ④ 役員関連行事日程表(平成 25 年度下期、平成 26 年度上期) | |

➢ 第 175 回理事会

平成 26 年 3 月 20 日(木) 於 東実年金会館 3 階

議事

- | | |
|-------------------------|------|
| (1) 平成 25 年度決算見込み | 【報告】 |
| (2) 平成 26 年度事業計画(案)承認の件 | 【承認】 |
| (3) 平成 26 年度予算(案)承認の件 | 【承認】 |

(4) 事業本部報告	運営本部、教育事業本部、技術本部、ET 事業本部	【報告】
(5) 支部活動報告	北海道、東北、東京、中部、北陸、近畿、九州	【報告】
(6) 役員退任の報告		【報告】
(7) 九州支部長の選任の承認		【承認】
(8) 各種規約の変更について		【承認】
(9) その他		
① 後援、協賛等の受諾報告		【報告】
② 平成 26 年度役員関連行事日程表		【報告】

2. 会員の変動状況

前年度期末会員数は、正会員 184 社、賛助会員 31 社の合計 215 社であった。期中ににおいて、正会員 13 社の入会があったが、退会が 18 社、賛助会員 4 社の入会があったが、退会が 2 社あったため、本年度期末会員数は、正会員社 179 社、賛助会員 33 社の合計 212 社となった。

新入会員

・ (株)クナイ	(正会員／東京)
・ (株)インフォテック・サーブ	(正会員／東京)
・ (株)メタテクノ	(正会員／東京)
・ アドソル日進(株)	(正会員／近畿)
・ テクマトリクス(株)	(正会員／東京)
・ (株)NCE	(正会員／東北)
・ (株)ソフトム	(正会員／近畿)
・ 安川情報エンベデッド(株)	(正会員／東北)
・ (株)エクスモーション	(正会員／東京)
・ (株)エフェクト	(正会員／九州)
・ (一社)TERAS	(賛助会員)
・ (一社)J-TEA	(賛助会員)
・ パワーシステム(株)	(正会員／北陸)
・ (株)NS コンピュータサービス	(正会員／東京)
・ 富士ソフト(株)	(賛助会員)
・ (一社)IIOT	(賛助会員)
・ (株)ブレイド	(正会員／東北)

IV 本部活動報告

平成 25 年度事業の推進は下表の本部組織にて行った。

平成 25 年度 JASA 事業本部組織表

本部名	委員会/研究会名	WG 名	公益支出事業
運営本部	総務委員会		事業番号 1
	広報委員会	機関誌発行 WG HP 管理 WG	
	国際委員会		
	協業推進委員会		
教育事業本部	ETEC 企画委員会	問題作成 WG	事業番号 2
	研修委員会		
	ET ロボコン実行委員会		
技術本部	安全性向上委員会		事業番号 4
	技術高度化委員会	OSS ライセンス WG	
		実装品質強化 WG	
		状態遷移設計研究会	
		モデルベース開発・検証研究会	
	応用技術調査委員会	技術セミナー委員会	事業番号 5
		プラットホーム研究会	
ET 事業本部	ハードウェア委員会		事業番号 3
	ET 実行委員会		
	ETWest 実行委員会		

<参考>公益支出事業

事業番号 1 組込み技術を普及するための海外及び国内調査研究

一部、支部活動(国内外視察)を含む

事業番号 2 組込み技術を担う技術者育成のための能力試験およびセミナーの実施

事業番号 3 開発高度化事業

事業番号 4 安全・安心関連事業

事業番号 5 技術啓発・人材育成事業

また、下記 2 件の本部直轄事業を実施した。

人材確保検討プロジェクト

■ 活動概要

人材確保検討プロジェクトは、東京都労働局の「中小企業人材確保推進事業助成金制度」を運用し、人材確保ならびに職場定着の施策を展開する JASA の各委員会を、横断的に支援するプロジェクトである。

JASA はこのプロジェクトを通じて会員企業の雇用状況の改善を目的としており、JASA 各委員会の施策が円滑に運ぶよう事業内容の提案や、雇用状況のアンケート調査・分析を行っている。

H25 年度の活動に対し、東京都労働局より 416 万円の助成金を受けた。

高齢者雇用推進プロジェクト

■ 活動概要

高齢者雇用推進プロジェクトは、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構からの委託事業として、平成 25 年度から 2 カ年で、「組込みシステム業における高齢者雇用推進ガイドライン」を策定し、その普及活動を行うためのワーキンググループである。今期の 950 万円の委託事業費を受領した。

事業本部活動報告

運営本部

総務委員会

- 規程類改定をメール主体で議論し実施した。

広報委員会

1. 機関誌発行 WG

協会機関誌「Bulletin JASA」を4回発行した。協会広報誌及び技術情報誌としての情報発信機能を強化し、併せて会員連携の促進と新規会員勧誘の機能を具備した有効なメディアとして記事内容の拡充を図り、会員企業はじめ関連業界や教育機関、また主催イベント等にて広く配布した。

- 6月13日 Vol.46 発行 ET West 2013 特集・会場配布号
ETWest2013 プレビュー及び出展紹介、技術本部成果発表会、国際化推進ワークショップ 2013 開催報告、第3回プラグフェスト開催報告等
- 9月19日 Vol.47 発行 人材育成・教育企画号
座談会「ベテラン技術者が語る第一線で活躍し続けるコツ」、寄稿「実践力と創造力を有する高信頼スマート組込みシステム技術者の育成」、「新人社員に求められる技術知識アンケート調査結果」、OpenEL の活動状況、「状態船意表設計における SPLE 実践ガイド」の紹介、国際ロボットカンファレンス 2013 開催報告等
- 11月19日 Vol.48 発行 ET2013 特集・会場配布号
ET2013 プレビュー及び出展会員紹介、国際だより「ミャンマー視察記」、アジャイル研究会の活動紹介、東北 IT ソリューション EXPO 基調講演／ET セミナー「オープンソースは怖くない」実施報告等
- 1月16日 Vol.49 発行 新年特別号
「会員企業による業界 2014 年の見通し／景気動向アンケート集計」、ET プレビュー「注目カンファレンスで振り返る ET2013」、第4回日本プラグフェスト開催報告、国際だより「グローバルフォーラム 2013 開催報告」、会員企業訪問／株式会社デンケン等

2. HP 管理 WG

協会活動の広報を目的として、協会イベント、委員会活動と成果報告、会員情報、機関誌 Bulletin JASA 記事等を掲載し迅速な情報発信を行った。
また、特別企画として、座談会第4弾「ベテラン技術者が語る第一線で活躍し続けるコツ」を企画・実施。座談会の模様を Bulletin JASA Vol.47 及び HP に掲載した。

3. 委員会の開催

- 委員会事業を推進するため、定例会議を開催した。(技術セミナーWG 同時開催)
- 4月11日 事業計画確認と機関誌年間計画及び Vol.46 コンテンツ確認
 - 5月15日 機関誌座談会企画及び機関誌 Vol.46 構成案検討
 - 6月19日 座談会企画検討・確認

7月 23日 座談会準備と当日運営(実施内容、出席者、進行等)確認
8月 8日 座談会開催「ベテラン技術者が語る第一線で活躍し続けるコツ」
8月 27日 座談会報告・原稿作成、機関誌 Vol.47 コンテンツ及び構成案確認
10月 2日 機関誌 Vol.48 コンテンツ確認
11月 7日 機関誌 Vol.48 構成案及び Vol.49 コンテンツ確認、景況調査項目確認
12月 13日 来年度事業計画案の検討、機関誌の位置付け等 (合宿)
12月 18日 来年度事業計画と予算案について検討
1月 21日 機関誌年間計画と予算案策定
2月 26日 運営本部報告と委員会事業計画及び予算案確認
3月 26日 事業計画スケジュール確認(協会案内冊子、動画製作他)

国際委員会

1. 国際委員会の定期開催

・委員会を隔月に計 6 回開催した。

*委員会では、主に国際委員会に対するニーズの調査から、グローバルフォーラム及び、国際化推進ワークショップの企画、実行計画の立案を実施した。

*識者を委員会に招き、委員会としての課題を探るため、「委員会スピーチ」を行った。

1. 「委員会スピーチ」の内容

(1) 第 23 回国際委員会 (4月 23 日)

「JISA 国際活動のご紹介と内外の連携についてのご提案」

(一社)情報サービス産業協会(JISA) 国際部専任部長 山本 秀己 氏

(2) 第 24 回国際委員会 (6月 25 日)

「フィリピンの近況とグローバル人材育成プログラム」

ASJ(株) 代表取締役 神田 茂 氏

(3) 第 25 回国際委員会 (8月 27)

「インドネシア・マレーシアのエンジニア クレデンシャル」

ジョブストリート・アセアンビジネスコンサルティング(株)

代表取締役 菱垣 雄介 氏

(4) 第 26 回国際委員会 (10月 16 日)

「インド IT 市場の現象」

Indo-Sakura Software Japan(株) 代表取締役 パスワン・アトゥル 氏

(5) 第 27 回国際委員会 (12月 12 日)

「グローバルビジネスのご紹介」

(株)システムコンサルタント

常務取締役 成清 義光 氏、国際・総合企画部 久保木 亮輔 氏

(6) 第 28 回国際委員会 (2月 12 日)

「気質モデル×石垣理論による人と組織の活性化 ～乱世の戦国時代に学ぶ～」

(有)アルゴソフト 代表取締役 岡崎 邦明 氏

2. 「JASA グローバルフォーラム 2013」の開催
 - ・開催日:平成 25 年 11 月 21 日(木)12:30~17:00
 - ・会場:パシフィコ横浜 アネックスホール 2F [F204]
 - ・参加者数:86 名(講演者、関係者含む)
 - ・テーマ:組込み関連企業が各国の状況やオポチュニティを知る
 - ・目的:海外協会との交流促進と、国内企業へのグローバル情報の提供
 - ・プログラム
 - ・「組込みソフト開発のアウトソーシングについて」
 - 組込みソフト開発のため、日本との協力に絶えず期待しているが……
 - タンロン技術学院 学長 フィン・ムイ 氏
 - ・「インドネシア組込み技術者のスキルと業務」
 - ジョブストリート・アセアンビジネスコンサルティング(株)
 - 代表取締役 菱垣 雄介 氏
 - ・「ミャンマーのご紹介」
 - Myanmar ICT Development Co., Ltd.
 - Vice Chairman アウン・ゾウ・ミン 氏
 - ・「VIP として注目されるフィリピンとその活用」
 - グローバル化を目指す企業にとってのフィリピンの魅力とは-」
 - ASJ(株) 代表取締役 神田 茂 氏
 - ・パネルディスカッション「わが社はどの国に進出すべきか」
 - モデレータ:グローバル・エグゼクティブ・コンサルティング
 - 代表 根塚 真太郎 氏
 - パネリスト:上記 4ヶ国講演者
3. 第 4 回「JASA 国際化推進ワークショップ」の開催
 - ・開催日:平成 26 年 2 月 28 日(金) 14:00~19:00
 - ・会場:東実年金会館 4 階会議室／3 階会議室(交流会)
 - ・参加者数:50 名(講演者、関係者含む)
 - ・テーマ:日本企業と現地企業、双方からの事例紹介
 - ・目的:会員企業及び JASA 外部企業の海外進出に関する情報提供
 - ・プログラム:
 - 基調講演
「変革期を迎えた日本企業のアジアビジネス」
法政大学 経営革新フォーラム 事務局長 増田 辰弘 氏
 - ・事例紹介
 - 『ベトナムアワー』
「ベトナムでのオフショア開発 ～課題と解決策について～」
FPT ソフトウェア(株) 第 17 開発事業本部
第 29 開発部 開発センター長 ゴー シー ヴィエト フー 氏
「ベトナムでの組込み設計 ～現地企業との仕組みづくり～」
(株)NS・コンピュータサービス 常務取締役 佐々木 修 氏
 - ・ディスカッション
『インドアワー』
「インドの視点から見た日本 IT ビジネスの問題点とその解決への手がかり」
Indo-Sakura Software Japan 株式会社 代表取締役 パスワント・アトウル 氏
「インドとの効果的なソフト開発対応への提言
～プロセスの整備と、人材とチームの最適な組合せに成功の糸口がある～」
(有)アルゴソフト 代表取締役 岡崎 邦明 氏

4. 海外協会への委員派遣

- ・ミャンマーICT 視察

日程:平成 25 年 8 月 22 日(木)～25 日(日)

目的:オフショア開発の可能性調査及び、GF2013 講演者発掘のため

派遣委員:廣田委員長、大津委員

5. JASA ホームページ「JASA 国際だより」、機関誌「Bulletin JASA」への投稿

会員企業及び JASA 外部に対する情報提供と広報活動への貢献のため、委員会から情報発信を行った。

- ・JASA ホームページ「JASA 国際だより」

(1) 国際委員会活動状況報告

(2) ミャンマー視察記

(3)「JASA グローバルフォーラム 2013」開催報告

(4)「第 4 回「国際化推進ワークショップ」開催報告

- ・機関誌 Bulletin JASA「JASA 国際だより」

(1)「第 3 回国際化推進ワークショップ」開催報告(vol.46)

(2)「国際委員会活動状況報告」のご案内 (vol.47)

(3)「ミャンマー視察記」(vol.48)

(4)「第 4 回 JASA グローバルフォーラム 2013」開催報告(vol.49)

6. アンケート取得

タイトル「グローバル化と JASA への期待」

グローバルフォーラム及び、国際化推進ワークショップの対象国等の調査を兼ね、

JASA 会員を対象としたアンケート調査を実施した。

・回答社数:60 社

協業推進委員会

主に、セミナーを介して、企業間の接点を模索し、マッチングの下地作りを行った。

一方で、Web 等、制限なく広くマッチングができる他の媒介を紹介した。

1. JASA 交流セミナー北海道

企業間、企業/JASA 間の接点を求めて、北海道内の ET/IT 企業に向けたセミナーを開催した。今般のセミナーは最新技術の紹介にとどまらず、事業化に向けた講演を交え、経営層の参画を求めた。

ねらい通り、事業化の講演興味を示す来場者が多く 80% が役立つと回答を得た。

講演名 『M2M 事例とセキュリティセミナー』

講演 「M2M ビジネスの新潮流」佐野勝大氏(株)ユビキタス

「すべてが繋がる時代のセキュリティ」中野学氏(IPA)

パネルディスカッション コーディネータ鈴木恵二氏(北大教授)

横山直樹氏(株)iD、佐野勝大氏(株)ユビキタス、中野学氏(IPA)

開催日時 平成 25 年 5 月 16 日(木) 14:00～(交流会 17:30～)

開催場所 札幌グランドホテル「玉葉」

参加者 93 名(うち、来場者 72 名)

2. 形式手法普及セミナー(共同開催)

北海道経済産業局支援による、北海道ソフトウェア技術開発機構と JASA の共同開催イ

ベントとして、技術セミナーを開催した。

講演名	『形式手法普及促進セミナー2013 in 札幌』
講演	「機能安全とセキュリティの確保に向けた形式手法への期待」 松本直樹氏(㈱デンソー電子基盤システム開発部先行技術開発室長) 「利用者支店でのソフトウェア高信頼化への取組み」 田丸喜一郎氏(IPA ソフトウェア高信頼化センター調査役) パネルディスカッション「根付いてきた形式手法～北海道のチャレンジ～」 コーディネータ 鈴木恵二氏(北大教授) パネリスト 和田学氏(㈱ヴァイツツ)、坂本謙治氏(アーク・システム・ソリューションズ㈱) 鬼頭正広氏(アイシン・コムクルーズ㈱)、水野勇介氏(パナソニックアドアシステムテクノロジー㈱)
開催日時	平成 25 年 9 月 13 日(金) 13:30～ (交流会 17:30～)
開催場所	札幌グランドホテル「玉葉」
参加者	79 名(うち、来場者 59 名)

3. CSAJ 合同開催アライアンスビジネス交流会

開発企業と主に販売会社のマッチングイベントを年 1 回、CSAJ と共同開催しており、本年度で 4 回目を迎えた。販売提携以外に、技術提携、資本提携等を訴求する機会でもある。

講演名	『第 103 回アライアンスビジネス交流会』
プレゼン	「クラウド化された健康医療情報伝達システム」 World Medical Center Japan(㈱) 「クラウド HEMS ソリューションと HEMS 向け開発キット」 ㈱ユビキタス[JASA 会員] 「ISO 準拠したマネジメントシステムの共有基盤システム」 (㈱)SRI 「ユークエストの EMS(エネルギー・マネジメントシステム)」 ユークエスト㈱[JASA 会員]
開催日時	平成 24 年 11 月 21 日(水) 16:00～ (交流会 18:00～)
開催場所	トスラブ大久保(関東 IT ソフトウェア健保会館)
参加者	37 名(社)

4. JASA 交流セミナー博多

高齢化と人口減少が進む中、医療/介護分野への IT/ET 業界の進出をテーマとして、開催した。

首都圏からの参加者もあり、事業分野を拡大するテーマへの関心が伺えた。

講演名	『IT x 医療: 市場参入へ向けて!』
講演	「情報誘導型インテリジェント治療システムの構築」 橋爪誠氏(九大大学院医学研究院先端医療医学講座) 「ICT を利用した未来型衣料の取り組みと展望」 松本武浩(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科) 「ロボット医療機器・先進福祉機器の開発について」 木原由光氏(ロボフューチャー㈱)
開催日時	平成 25 年 2 月 19 日(水) 14:30～ (交流会 18:00～)
開催場所	JR 博多シティ会議室 9 階 (交流会「ぶどうの樹」)
参加者	74 名(うち、来場者 55 名)

教育事業本部

ETEC 企画委員会

1. クラス 2 試験

➤ 受験者数

平成 25 年度総計で、588 試験(前年度比-47%)

助成金を活用する新入社員研修の助成金比率の削減に沿って減少したこと、JASA 会員による受験が減少したことが大きな要因と考え、平成 26 年度に複数の対策を打つこととした。

➤ 法人市場

法人、学生、一般の 3 つの市場の中で唯一前年度比割れした(-71%)。

下期よりに 対策を検討し、第 4 四半期以降、施策を展開している。

- JASA 会員企業

前年度比-80% クラス 2 試験による、人材管理の事例を紹介し、啓蒙していく。

- 一般大口利用企業

前年度比-54%。下半期より、バウチャー購入者リストを試験配信会社から取得し、購入企業へのヒアリングを行い、予算上の要因により需要を満たしていない企業には、大口顧客割引契約等にて、コストメリットを提案。結果、一部の企業は JASA 会員に加盟された。

➤ 学生市場

前年度比 +56%と伸びたが、本市場は施策効果が遅れるため、平成 26 年度以降に、効果が現れるものと思われる。

また、受験数全体がまだ少ないため、需要の顕在化として施策を強化する。

- バウチャー販売支援チャネルとして、大学・専門学校との販路がある 2 社と契約(1 月)。

➤ 個人市場

前年度比+25%。第 4 四半期より就・転職斡旋期間との受験者マッチング事業者とのサービスを開始した。また、一部の書籍に割引受験コードを付けた。

一方で、クラス 2 試験の参考図書類の絶版・廃版が増えており、平成 26 年度は、参考図書の改版・新刊を検討する必要がある。

2. クラス 1 試験

➤ 概要

ET2013 で対象受験者、試験レベル、評価等を公表した。

以降のクラス 2 受験者の平均点が高いことから、クラス 1 への期待が伺える。(クラス 1 受験条件にクラス 2 試験 500 点以上というボーダーがある)

➤ 作問

各分野の作問(初版)は終了し、出題方法・構文等に関して、サイコメトリシャン(計量数学者)に相談した。

➤ 予定

平成 26 年度上半期には、初版の最終校正、β 版試験、試験開始を予定する。

研修委員会

1. 大学:北陸先端科学技術大学院大学・金沢工業大学との連携

本年度より、北陸の2大学(北陸先端科学技術大学院大学・金沢工業大学)により、文部科学省推進事業の中の、実践型人材育成のための評価項目検討会が発足して、JASA は外部委員として参画している(4 年事業)。

5 月から計5回の検討会が開催され、実践型人材の人物像に対しての人物評価、知識評価、技量評価についての討議に参加した。

2. 学生市場:実践型教育普及活動

(ア) 調査活動

JASA 会員(組込みシステム開発事業者)に対して、新卒社員に求める知識に対する調査活動を平成 22 年度より開始し、4 年目を向えた。

平成 25 年度 9 月に実施し、回収率 51%。速報値を ET2013 にて発表し、3 月に報告書にまとめた。

(イ) ETWest2013・ET2013

2 つの展示会において、上記の調査結果・考察を発表した。

おもに、地域の学校法人関係者、学生、企業の人事担当者の聴講が多かった。

3. 学校法人チャネル

若年層=学生へのアプローチチャネルとして、組込み人材を育成している、大学(大学院)、高専、専門学校等、学校法人との関係を保持・強化した。

(ア) DM 発送 約 200 校、227 名(平成 26 年 3 月末現在)

Bulletin JASA(年 4 回)、ET-West2013 招待状、ET2013 招待状

4. 法人市場:企業内人財管理・育成

主に会員企業の人財育成を推進する上で、人材を把握し、戦略的な育成・配置を推奨することを目的として、共通キャリアフレームワークの学習会を委員会内部で開催した。

次年度以降、会員企業への紹介を試みる予定。

ET ロボコン実行委員会

平成 25 年度から「デベロッパー部門」と「アキテクト部門」の 2 部門制で実施をすることにした。デベロッパー部門は、従来の内容の踏襲であるが難易度を若干低くし、初めてのチームも参加をしやすい内容とした。一方、アキテクト部門は、参加者が自らテーマと課題を企画

し、その課題をクリアするというものである。競技者はコースの後半の何も書かれていない白いパフォーマンステージで、独自のパフォーマンスを披露するという内容にした。

その結果、平成 25 年度の参加チーム数は、363 チームで、内訳は、デベロッパー部門が 294 チーム、アーキテクト部門が 69 チームであった。

1. 地区大会

2013/9/14 日の九州地区大会、中国地区大会を皮切りに、10/13 日の北海道地区大会、北関東地区大会までの約 1 ヶ月で、全国で 11 地区大会を実施。今年は、IT パスポート試験の責任者でいらっしゃる IPA の山城参事(IPA 情報処理技術者試験センター長)が、全国 5 地区を見学された。

今年からアーキテクト部門を新設したが、チャンピオンシップ大会への出場枠の人数は、全部 40 チームで変わりはない。デベロッパー部門とアーキテクト部門の配分は、地区実行委員会に委ねた。

なお、今年は、9/21～23 日の 3 連休に、5 地区が同時開催となり、ゼッケンが足りなくなった。また、デベロッパー部門とアーキテクト部門の 2 部門があるため、どちらの参加かを区別する必要があった。それで、不織布でゼッケンを作成し、さらに参加チームが記念として持ち帰っても良いことにした。

➤ 経済産業局の後援

ET ロボコンの地区大会と管轄する各地の経済産業局とは結構一致している。それで、今年から、各地の経済産業局へ、後援と局長賞の申請を行った。申請時期の都合により、中国経済産業局産業局への対応は平成 26 年度改めて対応することとした。

- ✧ 北海道経済産業局 : 後援の許諾書を受領。
- ✧ 東北経済産業局 : 後援の許諾書を受領。
- ✧ 関東経済産業局 : 後援の許諾書を受領。

関東経済産業局は、北関東、東京、南関東地区大会の 3 地区を管轄。

- ✧ 近畿経済産業局 : 後援と局長賞の許諾書を受領。
- ✧ 中国経済産業局 : 後援の許諾書を受領済。
- ✧ 九州経済産業局 : 後援と局長賞の許諾書を受領。
- ✧ 内閣府沖縄総合事務所 : 後援の許諾書を受領。

2. ETWest 杯

2013/6/13(木)、6/14(金) 場所: インテックス大阪

毎年、ETWest の会場で実施しているイベントで、今年は、7 チームがエントリー。

3. チャンピオンシップ大会

11/20、21 日の 2 日間、ET2013 の併設イベントとして、チャンピオンシップ大会を開催。

デベロッパー部門は 27 チーム、アーキテクト部門は 13 チームが出場した。

➤ デベロッパー部門

90%を超える完走率で多くのマイナスタイムが出た。さらに、参加 2 年目の企業チームが、モデル部門、競技部門ともダントツの得点で総合優勝を果たした。

- アーキテクト部門
新しいルールで開催した部門で、見ている人に「すごい!」と思わせるパフォーマンスを企画し、それが実現できたかを競った。そして、その内容を会場の見学者(特別審査員 20 名、一般審査員 20 名の合計 40 名)が評価し、その得点が全体 50%を占める。今年は、参加者の自由な発想を妨げないように、あえてテーマなどは設けなかつた。
- 特別審査員は、行政、業界団体、プラチナ、ゴールドスポンサーから 20 名を選出した。この他に一般審査員 20 名は、ET2013 の企画委員から 2 名、残りの 18 名はデベロッパー部門の参加者から抽選で選んだ。
- その結果、企業チームと高専チームが同得点で優勝となった。企業チームは、お掃除ロボットがテーマで、散らかっている物体を探して片づけるというパフォーマンスを、高専チームは、ロボットが合体してお姫様を救出するというパフォーマンスを行った。テーマが対局にある 2 つのチームが特別・一般審査員から同得点を得て優勝したことは面白い。審査員を始めとして、多方面の方々から面白いという評価のお言葉を頂いた。

4. 平成 26 年度に向けた活動

- デベロッパー部門に新クラスを追加。
平成 25 年度は、デベロッパー部門とアーキテクト部門の 2 部門で実施したが、平成 26 年度は、デベロッパー部門を、「プライマリークラス」と「アドバンストクラス」の 2 つのクラスに分けて実施をする。
プライマリークラスは、初心者を対象に技術の蓄積ができるように従来のルールを踏襲し当面ルール変更はしない。アドバンストクラスは、走行体を二輪倒立振子型から 3 輪型に変更し、競技直前にコースの仕様を変更するというより高度な内容に挑戦するクラスとした。
デベロッパー部門を 2 つのクラスに分けたことで、平成 26 年度より、2 部門 3 クラスで実施をする。
- 平成 26 年度の参加チーム募集の終了
2014 年 3 月 10 日(月)～4 月 19 日まで、平成 26 年度の参加チームの募集を行った。最終的なエントリー数は確定していないが、アーキテクト部門の参加が減少した。
- IPA 賞の受賞対象の変更
今までの IPA 賞は、モデル部門を対象として、入賞できなかつたが突出した要素を取り入れたチームに贈賞していた。そのために、平成 25 年度は贈賞率が 50%に満たないという結果だった。そこで、平成 26 年度より、モデル部門、競技部門を問わず、“ソフトウェア高信頼化”に寄与する 1 チームに対し、特別賞として IPA 賞を贈る IPA 賞は“高信頼”設計・実装・走行に係わる(持続性、耐障害性、へこたれない)賞とし、受賞チームの決定は、各大会の審査委員会に委ねる。IPA 賞として賞状と盾を贈る。

技術本部

1. 活動概要

技術本部は、組込みシステム関連技術の調査研究と普及啓発を目的に、各委員会・研究会・WG 活動を推進した。

2. 活動経緯

1)技術本部会議

技術本部の活動を総括する場として、本部会議を年間 4 回実施した。

・4 月 17 日 第 1 回

各委員会・WG の活動状況の確認と、成果発表会の進め方を議論した。

・7 月 17 日 第 2 回

成果発表会の総括と各委員会・WG の活動報告、

またハードウェア委員会の活動テーマについて、意見交換を行った。

・9 月 18 日 第 3 回

各委員会・WG の活動状況の確認と、第 174 回理事会(9/19)活動報告の精査・承認ならびに ET2013 技術本部セミナーの準備・運営方法について議論した。

・11 月 27 日 第 4 回

各委員会・WG の活動状況の確認と、第 175 回理事会(12/4)活動報告の精査・承認および ET2013 技術本部セミナーの総括を行った。

2)成果発表会

今回で第 4 回となる成果発表会を、5 月 22 日に実施した。

一般参加者が増加し、参加者全体の 3 割を超えた。(参加者計 66 名:会員 46 名、一般参加者 20 名)

安全性向上委員会からは形式手法と SSQ(Safety、Security、Quality)の 2 件の発表、また中部支部のアジャイル研究会が初参加し、計 8 部門から 9 件の発表が行われた。

厳正な審査の結果、最優秀賞はプラットフォーム研究会、優秀賞は状態遷移設計研究会と安全性向上委員会(形式手法)、特別賞はアジャイル研究会に決定した。

3)技術本部セミナーの開催

11 月 20 日に ET2013 の会場にて、技術本部セミナーを開催した。聴講者は 5 セミナー計 259 名であった。(平成 24 年度は 4 セミナー 146 名)

アジャイル研究会、状態遷移設計研究会、プラットフォーム研究会、ハードウェア委員会、安全性向上委員会の 5 部門から発表が行われた。

4)H26 年度予算ヒアリング

2 月 6 日に、H26 年度の各委員会・WG の事業計画と予算のヒアリングを実施した。

3. 今後の予定

5/21(水) H25 年度 技術本部成果発表会

安全性向上委員会

1. 活動概要

昨年(H24 年度)に引き続き、機能安全と情報セキュリティについて、技術動向を調査するとともに、SSQ(Safety、Security、Quality)の課題・るべき姿をメンバーで議論し、ビジネスへの展開可能性も検討した。

CMSiS については顧客開拓のため、個別に 10 社ほど訪問し、二度の講演会を行った。

2. 活動経緯

年間8回の定例会と1回の合宿、ET2013 における顧客開拓への参画を行った。

外部から有識者に参加して戴き、講演をお願いした(2回)。また、IPAとの交流会などを施した。

CMSiS の教育機関であるグローバルテクノ社の協賛を得て、東京、大阪において講演会を開催できた。

3. 活動成果

- SSQ(Safety、Security、Quality)について、議論した。合宿(9月)にて集中論議し、成果を ET2013 JASA 技術本部セミナーにて発表(レンタコーチ中村委員)した。
- 5月の技術成果発表会には、SSQ について、レンタコーチ中村委員、形式手法についてクレスコ豊委員が発表した。
- R-MAPの発案者である松本様から、4/19に講演をして頂いた。
最近の機能安全への産業界の対応状況も聞けて有意義であった。
- 委員会合宿は、9/20~21 に山梨県湯村温泉にて実施。電気ポット、見守りシステムを事例にリスク分析、形式手法による表記、要求の仕様化を検討し、結果はET2013にて発表した。
- 生活支援ロボットの機能安全について、長岡技術科学大学の木村准教授に講演して頂いた(10/18)。本委員会との連携希望があり再度議論した(2/21)。木村先生から機能安全に関する講師育成への協力があった。来年度の課題とする。

- IPA から、システムの事故後の原因究明手法の検討について、討議の希望があり、4, 5 回にわたり議論した。IPA は、障害原因診断 WG を H26 年度に発足させ、委員会メンバーから数名が参加することになった。WG は、5 月末キックオフの予定。
- CMSiS について 講演会の出席者は、全て ISO 関係者であるため、当方としては期待大であり、特に一回目は専門誌に取り上げられたこともあり、約十社から引き合いを頂いたが結局顧客獲得にはいたらなかった。
中小規模あるいは中小企業の開発するソフトの安全安心の向上という共通した目的を持つ JISA との共同研究を下半期から開始した。

4. 今後の予定

- 技術本部が各委員会活動に、ロボットをキーワードとして入れるよう指示があつたので、本委員会は、生活支援ロボットの機能安全を視野に入れて SSQ を検討していくこととする。

また、今後は

- ①IPA とはシステム事故原因究明 WG と連携、
- ②長岡技術科学大学とは、生活支援ロボットのソフトウェア開発の指針(教育講師養成)検討、
- ③CMSiS によるロボット開発組織の評価
- ④DEOS や TERAS との交流、情報交換

などを行う。

ただし②、③と④は 具体的な活動方向はまだ未確定である。

さらに、本委員会の参加者が 20 名を超えるようになり、H26 年度は、新規加入社が 3 社あり、会議室の確保が大きな課題となってきた。

委員企業各社が会議室を持ち回りすることを検討中である。

CMSiS に関しては、JISA との共同研究は主に JFP 社の東京オフィスにて月一回以上の定期会合をもっており、4 月 18 日はその拡大会議を持つ。

当分はここに人的資源を集中し、主なターゲットを中部地区とする。

技術高度化委員会

OSS 活用 WG

1. 活動概要

H25 年度 3 月まで、日本の組込み仮想化市場形成を推進すべく活動した。

なお、H26 年度 4 月からはテーマを変更し、OSS を日本の組込み分野で安心して使用できる環境つくりを目指し、活動する予定である。

2. 活動詳細

H23 年度から 25 年度にわたり、まず組込み仮想化の技術的な標準の準備として、用語の統一と、仮想化技術を正しく知らせる資料を作成した。

続いて仮想化技術の定量的評価の指標作りを行った。組込み用途で、仮想化技術を使用するための、評価指標、ベンチマークなどを作成し、ユースケースを収集しました。また、仮想化技術を提供している各社を招いて紹介していただいた。

3. H26 年度の活動予定

仮想化に関する活動は H25 年度で集約し、今後、過去 3 年の成果をまとめ、ベンチマーク・プログラム集、同プログラムを用いた定量評価事例、定性評価の指標の適用例を、インターネットなどで公開する。

H26 年度より、安全で柔軟な OSS 活用フレームワークの構築をめざし下記の活動を行う予定である。

- OSS 利用に関する実態調査

- ロボット、家電分野での OSS 使用の実態を調査

- リスクマネジメントモデルの検討

- OSS ライセンスの検出ツールの調査と活用ガイドラインの作成

実装品質強化 WG

1. 活動概要

本 WG は、組込みソフトウェアの実装品質を強化するため、現状課題を整理し、実装品質の強化に向けた施策ガイドラインを提供することを目的に 2010 年度から活動を開始した。

2013 年度は WG 活動の最終年として、SWG1 にて検討を行った「実装品質実態調査アンケート」の結果の分析を進め JASA 会員企業における実装品質強化のためのツール利用状況、品質6特性への取り組み状況の整理を行った。

非機能要件の品質向上に向けた取り組み方法の検討を担当する SWG2 では、東洋大学野中研究室との共同研究「実製品における非機能要求実装方法の調査競争力を持つ製品での聞き取り調査と分析」を継続した。

これら2つの SWG 活動を集約しガイドラインとしてのまとめを進めるための集中討議を行い、ガイドライン目次、並びに論点について整理を行った。

最終年度取り組みとして 2013 年度末までのガイドライン出稿を目指し活動を行うも未了。WG 有志メンバーによるガイドライン執筆作業を継続中。

2. 活動詳細

2013 年度は 1 泊 2 日の合宿を含め合計4回の WG を開催した。

合宿では WG メンバーに加え、WG 顧問の東洋大学野中先生に加え同大学富田先生、山口先生にもご参加いただき、アンケート結果ならびに聞き取り調査結果をもとに多方面から議論、意見交換を行い、ガイドライン骨格の検討をすすめた。

2013/4/19	2013 年度第 1 回 WG: 今期 WG の目標設定、技術本部会議報告
2013/7/20-21	第 2 回 WG: 合宿によるガイドラインに関する集中討議
2013/9/27	第 3 回 WG: 原稿執筆会
2013/11/8	第 4 回 WG: 原稿執筆会
2013/12/6	第 5 回 WG: 原稿執筆、進捗確認。 終了後忘年会実施。

3. 活動成果

・「実装品質強化ガイドライン」未完

状態遷移設計研究会

1. 活動概要

状態遷移設計研究会は、状態遷移設計の漏れ抜けに気づきやすい、という特性を持つ状態遷移表を広く普及、定着させることを目的に活動している。

平成 24 年度は、状態遷移表の再利用を促進するため、再利用を前提とした、系列製品開発のプロセス「ソフトウェアプロダクトライン開発(SPLE)」と状態遷移設計の融合プロセスを策定した。この融合プロセスは、「状態遷移設計におけるSPL-E実践ガイド」として、公開した。

平成 25 年度より「状態遷移表のリバースモデリングへの適用」という新たなテーマで活動を開始した。このテーマは、派生開発が主流となっている組込みソフトウェアの開発において既存システムのブラックボックス化により、コードの解析や機能追加などが困難な状態となっている現状を踏まえ、レガシーコードをリバースエンジニアリング手法により解析し、状態遷移の部位を抽出し、状態遷移表を作成するプロセスを研究するものである。

1) 定例会議

第1回:4/10:①平成 25 年度の新規テーマの選定。

②平成 25 年度の活動スケジュール策定。

第2回:5/15:①リバースモデリング手順の研究、討議。

技術本部成果報告会:5/22

第3回:6/12:①サンプルソースコードでのリバースモデリング研究、討議。

②集中検討、討議のため合宿日程調整。(6/30～7/1)

合宿検討:6/30～7/1:箱根湯本

第4回:7/10:プロセスの課題整理。

第5回:8/7 :プロセスの検討、ソースコードの整形手段検討。

第6回:9/11:リバースモデルプロセスの討議。

サンプルソースの検証。

ソースコードの整形ツールの展開。

第7回:10/9:リバースモデルのプロセスガイド構想議論。

ソースコード整形ツールのverUP検証。

①技術本部成果報告、プレゼン資料準備。

②JASAベース準備、パネル／配布資料準備。

③JASAベースミニセミナー準備。

第8回:11/13:

1. ET2013 準備

2. リバースモデリングプロセスの討議。

・12/2、愛媛大:柳原先生訪問アポ、調整。

⇒目的:顧問依頼、プロセスの論理の検証手順について教授願う。

3. SPLE 実践ガイド、翻訳版レビュー。

11/20～22、ET2013 会期中

1. 11/20:技術本部成果報告

聴講者:約 30 名、アンケート回収 21 名

2. 11/21,22:JASAベースセミナー

聴講者:約 30 名、アンケート回収 22 名

3. JASAベース名刺交換:29 名

所感:パネル説明、セミナーのアンケートからは、取り組みに関する関心度は高く、概ね感触良好。積極的な聴講者もあり、今後名刺情報から再アプローチをかけ、活動への協力、会員参加に繋げる。パネルの展示、配布資料は効果あり。継続したい。

第 9 回:12/11:・ET2013 アンケート結果、名刺情報の整理。

・12/2、愛媛大:柳原先生訪問、顧問就任依頼。

・ツール化の検討。

第 10 回:1/21:・ツール化の要件整理、サポイン申請検討。

・リバースモデリング手順の検討。

第 11 回:2/12:・ツール要件整理&リバース手順の検討。

⇒STM 化困難なパターンの洗い出し。

・2014 年度予算申請＆ヒアリング(2/6)。

プラットフォーム研究会合同勉強会(2/20) ・FSM4RTC 勉強会。

第 12 回:3/14:・ツール要件の検討、NEDO/サポイン説明会参加。

・柳原先生、デザインパターンレクチャーの日程調整。

・「状態遷移表設計におけるSPL-E実践ガイド」翻訳版校正。

2. 状態遷移設計研究会の活動紹介、広報活動

各地のセミナーや、団体との交流を深めながら、普及活動を行った。

①5/22:技術本部成果報告。→優秀賞

②6/25:株式会社メタテクノにて、出張セミナーの実施。

→状態遷移設計研究会に株式会社メタテクノ:小林様、参加。

③8/30:東松山シーテック株式会社、パイオニアシステムテクノロジー株式会社にて紹介。

④8月の SPLC 国際会議への参加は見送り。

⑤BulletinJASA、Vol47号にSPL-E実践ガイドの紹介記事投稿。

3. 活動成果

①「状態遷移表のリバースモデリングへの適用」原理、サンプル検証。

②平成24年度成果「状態遷移表設計における SPL-E 実践ガイド」翻訳版up

③平成26年度から、NTTD-MSE(株)、スパンション・イノベイツ(株)参加。2名増員。

4. 今後の予定

①4/4、「デザインパターンの組込みシステムへの適用」愛媛大:柳原先生

勉強会の開催。

②リバースモデリングのツール化検討、サポイン申請の調整

⇒NEDO/サポインともに、補助金事業となり、補助は max2/3。

1/3は自己投資が必要。

ツール化のバジェットの獲得に関して、再検討が必要。

③ツール要件の検討。

④ET-WEST2014 出展、セミナー計画 ⇒2014年度の目標。

・リバースツールの要件の確定、プロトタイプツールの作成。

・ツールによるリバースプロセスの検証バリエーションの拡充。

モデルベース開発・検証研究会

H25年度は活動なし

応用技術調査委員会

技術セミナーWG

1. 活動概要

昨年までと同様、組込み関連の最新技術に関するセミナーを立案し、実行した。

地方開催、業界研究セミナーを含め、合計6回のセミナーを開催した。

2. 活動経緯

年間 11 回の定例会と 1 回の合宿を行った。

主に、セミナー企画、運営打合せおよび振り返りに充てた。

3. 活動成果

・6 月 25 日「国際ロボットカンファレンス(IRC)2013」

日経 BP と共に、ソラシティホールにて午前基調講演、午後 2 トラックの構成で実施。
有料申し込み者 68 名、その他招待客若干名の参加。終了後の講師交えた懇親会を含めて、参加者アンケートはおおむね好評であったが、集客に難があった。

主な収支は日経 BP と折半であるが、JASA としての損益は 70 万円弱の赤字。

・7 月 25 日「HTML5 による組込みとモバイル/クラウドの新たなる融合」

～HTML5 ナビはトンネルで使えるのか！？～

通常の JASA/ET セミナーのスタイルで実施。

参加者 34 名。アンケートはかなり好評。

・9 月 5 日

「ET2012 カンファレンス 設計・検証ツールトランク ベスト 3 を集めました」

～ソフトウェアデバッグの最新技術とトレンド～

有料入場者数 15 名程度。昨年 ET の無償セミナーと同内容であり、集客が伸びず、多少の宣伝も入ったことで、アンケート評価もあまりよくなかった。

・10 月 8 日「オープンソースは怖くない！」

～OSS ライセンスの正しい理解とオープンソース活用によるメリット～

有料入場者数 26 人（全体で 34 人）

JASA 内部へのメール配信を強化したが、会員外の参加者が半分を占めた。

多少宣伝色はあったものの、概ね好評。

一般 2000 円/会員 1000 円の設定のセミナーは今後も継続する。

・10 月 29 日 東北 IT ソリューション Expo 内基調講演（二部制）

「ウェブディベロッパから見た組込み機器向けブラウザへの期待と課題」：63 名

「マイクロ・ナノ技術を用いた低浸襲医療機器・ヘルスケア機器の開発」：47 名

東北支部の集客が奏功。申し込みより多い人数の来場を達成。

・11 月 20 日（ET2013 初日）「JASA 業界研究セミナー」

学校関係者に組込み業界を意識してもらう。

内容：

「なぜ僕が組込み業界を目指したか」

「技術者のプロをつくる・育てる」

「業界・企業が求めるスキルとは」

「組込み技術者教育を目的とした ET ロボコンの紹介」

受講者 46 名(満席)

学校関係者、学生に加えて企業関係者も散見された。

4. 今後の予定

H26 年度においても、IRC2014(8 月末開催予定)をはじめとする有料セミナーを開催し、対外的な JASA のプレゼンスを高めるとともに、JASA 会員企業が最新技術に触れる場を提供する。

会員のレベルアップ、JASA の PR を基本的なリターンとし、有償無償の切り分けをすることですすめてゆきたい。

プラットフォーム研究会

1. 活動概要

本年度も昨年度に引き続き、次世代の共通基盤となる技術や考え方を探究し、具体的にロボットのプラットフォーム(PF)について深堀を行うとともに、成果を一般に公開することを目的として活動を行った。具体的には、昨年度に公表した OpenEL 1.0 についてさらなる調査・研究を進め、OpenEL 1.1 の仕様を検討した。また、OpenEL を国際標準とするために米国を拠点とする世界的な標準化団体である OMG(Object Management Group)の技術会議に参加し、Robotics-DTF 共同議長兼 Hardware Abstraction Layer WG 議長として平成 27 年度中の標準化を目指してプロセスを開始した。

2. 活動経緯

1) 会議

- ・ 5 月 16 日(木):第 1 回ロボット WG、研究会の開催
- ・ 5 月 22 日(水):JASA 技術本部成果発表会で発表(最優秀賞を受賞)
- ・ 6 月 27 日(木):第 2 回ロボット WG、研究会の開催
- ・ 7 月 18 日(木):第 3 回ロボット WG、研究会の開催
- ・ 8 月 22 日(木):第 4 回ロボット WG、研究会の開催

ハードウェア委員会との共催。JASA 推奨 OpenEL 対応ハードウェアプラットフォームについて協議

- ・ 9 月 30 日(月):第 5 回ロボット WG、研究会の開催
- ・ 10 月 18 日(金):ロボットの機能安全に関するセミナーを安全性向上委員会と共に
講演タイトル:

「サービスロボット安全規格 ISO13482 の概要とロボット技術最新動向」

講師:

長岡技術科学大学 技術経営研究科 システム安全専攻

准教授 木村哲也先生

- ・10月24日(木):第6回ロボットWG、研究会の開催
- ・11月14日(木):第7回ロボットWG、研究会の開催
- ・12月19日(木):第8回ロボットWG、研究会の開催
- ・1月23日(木):第9回ロボットWG、研究会の開催
- ・2月20日(木):第10回ロボットWG、

状態遷移設計に関する合同研究会を状態遷移設計研究会と共に開催

講演タイトル:OMG FSM4RTC の紹介

講師:株式会社本田技術研究所 基礎技術研究センター 第5研究室

第2ブロック 研究員 関谷 真様

- ・3月13日(木):第11回ロボットWG、研究会の開催

2) 合宿の開催(4月18日～19日)

- ①平成24年度活動のまとめ
- ②平成25年度事業計画の詳細検討
- ③技術本部成果発表会資料作成

3) 技術セミナーWG および日経BP と共同でカンファレンスを開催

- ・6月25日(火):国際ロボット・カンファレンス 2013

4) OpenEL の普及・啓発

- ・6月25日(火):国際ロボット・カンファレンス 2013 で発表
講演タイトル:「日本発の国際標準を狙う次世代のロボット開発プラットフォーム
OpenEL」
- ・10月17日(木):(一社)電子情報通信学会クラウドネットワークロボット研究会での論文発表
論文タイトル:「OpenEL－日本発の国際標準を狙う次世代のロボット開発プラット
フォーム－」
- ・11月20日(水):ET2013 ロボットセッションで発表
講演タイトル:「ロボット技術における国際標準化の動向」
- ・11月20日(水):ET2013 JASA 技術本部セミナーで発表
講演タイトル:「日本発の国際標準を狙う次世代のロボット開発プラットフォーム
OpenEL」
- ・11月20日(水)～22日(水):ET2013 JASA ブースにて発表およびポスター展示
講演タイトル:「日本発の国際標準を狙う次世代のロボット開発プラットフォーム
OpenEL」
- ・1月7日(火):NEDO・東京大学主催のRTM・RTCセミナーで講演
講演タイトル:「ロボットおよび組込みソフトウェア向けのオープンなライブラリ
OpenEL」
- ・3月7日(金):JASA 東北支部講演会で発表

講演タイトル:「日本発の国際標準を狙う次世代のロボット開発プラットフォーム
OpenEL」

5) OpenEL の国際標準化

- 6月17日(月)～19日(水):OMG技術会議(独ベルリン)に出席
Hardware Abstraction Layer WG の開催、Robotics-DTF 全体会議において
Hardware Abstraction Layer for Robots の RFI(情報提供依頼)文書の正式発行を決議
- 9月23日(月)～25日(水):OMG技術会議(米ニュージャージー州ニューブランズウッド)に出席
Hardware Abstraction Layer WG の開催、Robotics-DTF 全体会議において
Hardware Abstraction Layer for Robots の RFI(情報提供依頼)文書へのレスポンスの確認
- 12月9日(月)～11日(水):OMG技術会議(米カリフォルニア州サンタクララ)に出席
Hardware Abstraction Layer WG の開催、Robotics-DTF 全体会議において
Hardware Abstraction Layer for Robots の RFI(情報提供依頼)文書へのレスポンスの確認、OpenEL の紹介、RFP の発行プロセスに進むことを決議
- 3月24日(月)～26日(水):OMG技術会議(米バージニア州レストン)に出席
Hardware Abstraction Layer WG の開催、Robotics-DTF 全体会議において
Hardware Abstraction Layer for Robotic Technology(HAL4RT)の RFP(仕様提案依頼)ドラフト文書の1回目のレビュー

3. 活動成果

- ① JASA 技術本部成果発表会において、OpenEL 1.0 を広く一般に発表した。OpenEL 1.0 でサーフェイスレイヤおよびコンポーネントレイヤを導入したこと、ロボットメーカおよび部品ベンダにとってメリットのあるアーキテクチャとなり、40 を超える API 仕様を策定し、実用化により一歩近づいた。
- ② 平成25年4月に、OMG(Object Management Group)のドメイン会員として正式に入会し、Robotics-DTF および Hardware Abstraction Layer WG の活動を開始した。6月の技術会議では、プラットフォーム研究会委員長の中村が Robotics-DTF の共同議長に選出された。7月には、Hardware Abstraction Layer for Robots の RFI(情報提供依頼)文書が OMG より正式に一般公開された。
- ③ 国際ロボット・カンファレンス 2013 を開催し、国内外のキーパーソン及び 68 名の有料参加者に対して OpenEL の紹介を行うことができた。
- ④ ロボット開発の現場や有識者からヒアリングを実施した結果、OpenEL に対応したハードウェアに対する潜在的な需要が非常に大きいことが判明したため、ハードウェア委員会と共同で JASA が推奨する OpenEL 対応のハードウェアプラットフォームの開発に向けて研究会を開催した。
- ⑤ (一社)電子情報通信学会クラウドネットワークロボット研究会で論文発表および講演を行い、約 30 名に OpenEL を紹介することが出来た。

- ⑥ 安全性向上委員会との合同勉強会では、サービスロボットの安全規格である ISO13482 について幅広い知識を得ることが出来た。
- ⑦ ET2013 ロボットセッション、JASA 技術本部セミナーおよび JASA ブースにおいて、約 140 名に OpenEL を紹介することができた。
- ⑧ NEDO・東京大学主催の RTM・RTC セミナーでの OpenEL の講演を行い、約 30 名に OpenEL を紹介することができた。
- ⑨ 状態遷移設計研究会との合同勉強会では、状態遷移設計について幅広い知識を得ることが出来た。また、現在、本田技術研究所が OMG に提案している FSM4RTC(Finite State Machine Component for RTC)の仕様について学ぶことが出来た。
- ⑩ 予定されていた OpenEL 1.x の実証実験が一通り完了し、実用化にさらに一步近づいた。引き続き、国際標準を獲得するために OpenEL 1.x および 2.0 の仕様策定および OMG での RFP の発行に向けて活動を継続している。

4. 今後の予定

日本国内のロボットおよび部品メーカーに対する仕様策定作業への協力依頼
世界中のロボットおよび部品メーカーに対する OMG の Hardware Abstraction Layer WG
への協力依頼

- ・ 4月 17 日(木)～18 日(金):合宿
- ・ 5月 15 日(木):第 1 回ロボット WG、研究会の開催
- ・ 5月 21 日(水):JASA 技術本部成果発表会で発表
- ・ 6月 13 日(金):第 2 回ロボット WG、研究会の開催
- ・ 7月 17 日(木):第 3 回ロボット WG、研究会の開催
- ・ 8月 21 日(木):第 4 回ロボット WG、研究会の開催
- ・ 6月 16 日(月)～20 日(金):OMG 技術会議(米マサチューセッツ州ボストン)に出席
- ・ 9月 15(月)～19 日(金):OMG 技術会議(米テキサス州)に出席
- ・ 12月 8(月)～12 日(金):OMG 技術会議(米カリフォルニア州ロングビーチ)に出席
- ・ 3月 23(月)～27 日(金):OMG 技術会議(米バージニア州レストン)に出席

ハードウェア委員会

1. 活動概要

2013 年度は、前年度活動テーマを継続し、ET2013 技術本部セミナーでの成果発表をもって調査終了した。以降、次期活動テーマを議論する中で、JASA 活動方針及び他の委員会との連携を考慮した活動テーマを模索するため、臨時の技術本部会議を開催し、ハードウェア委員会に期待する意見と具体的なテーマ案を意見収集した。この意見をもとに次期活動テーマの議論を進めている。その他、日本プラグフェストの開催支援及び JPCA2013 に出展し、JASA およびハードウェア委員会活動の広報活動を実施した。

<2013年度の調査テーマ>

- WG1)組込みシステムの時代による変化(発展性)
- WG2)組込みシステム構成におけるハードウェアの位置付けの変化
- WG3)組込みシステム技術者に重要さを増す従来ハードウェア・スキルとは
- WG4)組込みシステム技術者に求められる新しいハードウェア・スキルとは
- WG5)ポスト組込みシステムとは何か

2. 活動経緯

1) 会議

- | | | |
|---------|-----------------|----------------------|
| 4月 10日 | 第1回定例会議 | 技術本部成果発表準備 |
| 5月 8日 | 第2回定例会議 | JPCA 出展準備、技術本部成果発表準備 |
| 6月 12日 | 第3回定例会議 | ET2013 発表準備 |
| 7月 10日 | 第4回定例会議 | ET2013 発表準備、次期テーマ検討 |
| 7月 17日 | 臨時技術本部会議 | ハードウェア委員会に対する意見収集 |
| 8月 22日 | プラットフォーム研究会合同開催 | OpenEL 参加について |
| 9月 11日 | 第5回定例会議 | ET2013 発表準備、次期テーマ検討 |
| 10月 9日 | 第7回定例会議 | ET2013 発表リハーサル |
| 11月 13日 | 第8回定例会議 | ET2013 発表リハーサル |
| 12月 11日 | 第9回定例会議 | 次期テーマ検討 |
| 2月 13日 | 第10回定例会議 | 次期テーマ検討 |
| 3月 13日 | 第11回定例会議 | 次期テーマ検討 |

2) JPCA2013 参加

- 6月5日～7日 JPCA2013JASA ブース内にて出展

3) ET2013 参加

- 11月20日 ET2013 JASA 技術セミナーにて「組込み技術者に求められるハードウェアスキルとは？」と題して、従来スキルと新しいスキルの2部で発表した。

4) 第3回、第4回日本プラグフェスト参加

- 11月28日～29日 第4回日本プラグフェスト参加

5) 企業視察

- 12月3日 JVCケンウッド久里浜殿の見学と意見交換会を実施した。

3. 活動成果

1) 会議

- ハードウェア研究会／委員会として発足以来、組込みシステム技術及びビジネスにおける環境や技術の調査を行い、数々の成果発表を実施してきた。次期活動テーマは、JASA 技術本部の方針や他の委員会活動に関連性を持ち、形ある成果を目指したものとした。これに伴い、各委員長との意見交換会の開催やプラットフォーム研究会との合同会議を実施し、ハードウェアに期待する意見を収集した。以降、プレストを繰り返し、2014年度以降の活動テーマとして、中堅の組込みハードウェア技術者に求められるスキルを体験型学習方式で、具体的なテーマと育成の仕組みを模索することとした。

2) JPCA2013 参加

他団体との交流及び展示会来場者への広報活動として JPCA ショー(11万人来場)に委員会の6企業が出展し、JASA 及び委員会活動をアピールした。

3) ET2013 参加

前年度からの委員会活動の成果から「組込み技術者に求められるハードウェアスキル」を抜粋し、下記の内容を講演し、多くの参加者より好評を得た。

(講演内容)

- ・組込み機器開発の環境や開発スタイルの変化による応用製品や技術の変化
- ・組込みボード開発におけるアナログ回路の重要性
- ・近未来技術マップ
- ・新しく求められる技術、プロセス、ツール、スキル

4) 第3回、第4回日本プラグフェスト参加

例年通り、JASA 主催の日本プラグフェスト開催を支援し、滞りなく実施した。
参会者からも継続を切望されており、引き続き支援していく。

5) 企業視察

JVCケンウッド久里浜殿の8K技術を通して、日系企業が注力すべき技術や、教育方法について議論した。技術者に求められるスキルや教育方法に関する参考情報が得られた。

4. 今後の予定

1) 会議

年10回開催(予約済み)

2) JPCA2014 参加

6月4日～6日 JPCA2014JASA ブース内にて出展、今回は日本プラグフェストと併設

3) 第5回日本プラグフェスト参加

6月4日～6日 JPCA2014 会場の一角にて第5回日本プラグフェストを開催

4) 勉強会

(候補)おじさん工房「APB-3 ボード」、ルネサス「Smart Analog」講演交渉中

ET事業本部

ET実行委員会

世界最大級の組込みシステム技術の専門展示会を企画、開催した。

今回コンセプトテーマに「Be Connected with ET」とし、「組込みシステム技術」が、IoT や M2M に代表される「つなげる技術」を活用することで、更なる応用分野の拡大を訴求した。

また前回に続き、今後の成長が期待される応用分野として「スマートエネルギー」「オートモティブ」「ロボティクス」「スマートアグリ」「スマートヘルスケア」「モバイル／クラウド」を取り上げ、各分野に対するソリューションの展示と紹介、またカンファレンスを企画・構成することで関連情報を発信した。

併せて、特設企画ゾーンとして、テーマゾーン「Be Connected with ET」並びに「設計・開発サービスゾーン」を新設した。

また、優れた製品・技術・ソリューションを選出・顕彰する「ET Award」も、各応用分野を対象に選考し、5 部門から 6 製品の優秀賞と、先端テクノロジー賞の 2 製品、計 8 製品を選出し、会場にて表彰を行った。

＜開催要綱＞

名称： Embedded Technology 2013／組込み総合技術展

会期： 2013 年 11 月 20 日(水)～22 日(金) 10:00～17:00 (21 日は 18:00)

会場： パシフィコ横浜 展示ホール・会議センター・アネックスホール

主催： 一般社団法人 組込みシステム技術協会(JASA)

企画・推進： 株式会社 ICS コンベンションデザイン

展示規模： 出展社数： 403 社・団体 小間数： 813 小間

来場者数： 21,485 名 (同時展合計 23,984 名)

カンファレンス： 124 セッション 受講者数： 10,827 名

特設ゾーン： テーマゾーン「Be Connected with ET」、設計開発サービスゾーン

企画イベント： ET アワード、ET フェスタ、ライブテキスト

同時開催： Electronic Design and Solution Fair 2013

併催行事： ET ロボコンチャンピオンシップ大会

併催セミナー： グローバルフォーラム、技術本部セミナー、業界研究セミナー、他

＜会議・委員会の開催＞

ET2013 企画立案及びカンファレンス構築のための企画会議を開催するとともに、実施要領等に関する確認・意見交換として実行委員会を開催した。

また、ET2013 の方針とコンセプト等開催概要の発表・紹介として、メディア関係者を対象としたプレス発表会の開催。海外からの誘致とプロモーションとして、台湾での ET セミナーを実施した。

25 年 2 月 7 日 企画会議・準備会

3 月 8 日 企画会議・準備会(合宿)

3 月 28 日 企画会議・正副委員長会議

4 月 25 日 台湾 ET セミナー

「組込みシステム技術による次世代 IT 産業の展望」開催

5 月 23 日 ET 本部会

7 月 5 日 企画会議

8 月 9 日 第 1 回実行委員会

8 月 19 日 査読会・企画会議

8 月 28 日 ET 出展説明会(パシフィコ横浜)

8 月 29 日 プレス発表(サンケイ会館)

10 月 16 日 査読会・企画会議

11 月 8 日 ET アワード最終審査会

12 月 9 日 企画会議

26 年 1 月 9 日 第 2 回実行委員会

- 1月 10日 ET 本部会
1月 31日 正副委員長、JEITA 会議
3月 6日 企画会議
3月 12日 正副委員長、製作会議
3月 26日 企画会議
-

ET-WEST実行委員会

関西唯一の組込みシステム技術の専門展示会を企画、開催した。
近畿支部が中核となり、経産局、関連機関等との連携により、関西地域の特色を生かした展示会とカンファレンスを企画・運営し、広く西日本における関連産業の発展に寄与した。
また前回に引き続き、エネルギー、システム開発の専門展「Smart Energy Japan inOsaka (SEJ)」との同時開催により、スマートエネルギー分野をも捉えた展示とカンファレンスを構成・展開し、過去最高となる 5,812 名の来場を得ることができた。

＜開催要綱＞

名称 : Embedded Technology West 2013／組込み総合技術展 関西
会期 : 2013 年 6 月 13 日(木)・14 日(金)10:00～17:00
会場 : インテックス大阪
主催 : 一般社団法人 組込みシステム技術協会
企画・推進 : 株式会社 ICS コンベンションデザイン
展示規模出展社数 : 144 社・団体 小間数 : 169 小間
来場者数 : 5,812 名
カンファレンス : 62 セッション 受講者数 : 4,025 名
同時開催 : SMART ENERGY JAPAN 2013 IN OSAKA
後援 : 近畿経済産業局、大阪府、大阪市、京都府、滋賀県、奈良県、
兵庫県、和歌山県、情報処理推進機構
協賛 : 公益社団法人関西経済連合会、組込みシステム産業振興機構、
大阪商工会議所、一般財団法人関西情報センター、近畿情報システム産業協議会、一般財団法人大阪科学技術センター、公益財团法人大阪市都市型産業振興センター、一般社団法人電子情報技術産業協会 関西支部、公益財团法人大阪産業振興機構、一般社団法人 IT 検証業協会
企画イベント : M2M コーナー、ET ロボコン競技会、アジャイルラジオ、
スマホサイト、ライブテキスト

＜会議・委員会の開催＞

ET WEST2013 実施計画と企画立案及びカンファレンス構築のため、実行委員会及び企画会議を開催した。

24 年 11 月 5 日 第 1 回実行委員会・企画会議
12 月 17 日 第 2 回実行委員会・企画会議
25 年 3 月 7 日 第 3 回実行委員会・査読会
4 月 12 日 ET WEST2013 出展説明会
5 月 9 日 第 4 回実行委員会・査読会
7 月 18 日 第 5 回実行委員会

12月6日 2014 第1回実行委員会
26年2月18日 2014 第2回実行委員会・企画会議

支部活動報告

北海道支部

1. 事業概要

本部協業推進委員会主導による、「M2M」をテーマとしたセミナーを開催した。

70名以上の参加者があり、盛況であった。

東北支部

1. 事業概要

東北支部としては、他地域・産業団体との交流、情報交換を更に活発化させ、ET展示会等のビジネスマッチングの場を活用して地元企業の強みを情報発信することで、東北地域における組込み産業の振興に貢献することができた。

また、支部独自・単独の事業として、組込みシステム関連の最新の業界動向や技術情報を普及促進するオープンセミナーを積極的に開催。東北地域の企業等から広く受講者を集客し、受講者間の交流の場を提供することで、当協議会事業のPRに繋げることができた。

2. 会員の異動状況

期首支部会員数は、正会員10、准会員3社の合計13社、期中において正会員3社の入会があった。期末合計は、正会員13社、支部会員3社の合計16社となった。

	正会員	支部会員	賛助会員	計
25年・4月	10	3	0	13
26年・3月	13	3	0	16

3. 事業実績

1. 支部会議

(1) 平成25年度東北支部会議

日時 平成25年5月17日(金) 15:00~17:00

場所 マリオス 18階「183会議室」

参加 会員15名、東北経済産業局 課長補佐 松本様

内容 ① 平成24年度事業報告案、収支決算案の報告、審議

② 平成25年度事業予算案の協議

③ オープンセミナーのテーマ／時期の検討、「アジャイル研究会」の紹介

(2) 第4回支部会議

日時 平成25年9月6日(金) 13:00~14:30
場所 ヤマコ一ホール 7階「小会議室」
参加 会員12名、東北経済産業局 係長 小林様
内容 ① 平成25年度事業報告案、収支決算案の報告、審議
② 平成26年度収支予算案の協議
③ オープンセミナーの講師について検討

(3) 第5回支部会議

日時 平成25年11月21日(木) 12:00~14:30
場所 パシフィコ横浜会議センター 3階「318」
参加 会員11名
内容 ① 平成26年度事業計画案、収支予算案の協議
② 平成26年度事業計画と年会費についての協議

(4) 第6回支部会議

日時 平成26年1月24日(金) 15:15~17:00
場所 ハーネル仙台 6階「ばら」
参加 会員8名
内容 ① 平成25年度事業報告案、収支予算案の報告、審議
② 平成26年度事業計画案、収支決算案の報告
③ 国内見学会の候補について検討

(5) 第7回支部会議

日時 平成26年3月7日(金) 13:30~14:30
場所 会津大学産学イノベーションセンター 「3Dシアター」
参加 会員9名
内容 ① 平成25年度事業報告案、収支予算案の報告、審議
② 平成26年度事業計画案、収支決算案の報告

2. 新プロジェクト検討会ならびに講演会

最新の市場動向を共有し、新プロジェクト発足に向けたディスカッションを行った。

- (1) 平成25年5月17日(金) 13:00~14:30 / 参加者8名 マリオス(岩手)
 - (2) 平成25年7月19日(金) 15:00~17:00 / 参加者10名 ハーネル仙台(宮城)
 - (3) 平成25年9月6日(金) 10:30~12:00 / 参加者8名 ヤマコ一ホール(山形)
 - (4) 平成26年1月24日(金) 13:30~15:00 / 参加者7名 ハーネル仙台(宮城)
- 関連して下記の講演会を実施した。

(5) 第5回講演会

日時 平成25年9月6日(金) 15:00~17:00
場所 ヤマコ一ホール 7階「小ホール」
参加 24名
講演 ①「協同教育および高専連携による高専の組込み関連教育」
鶴岡工業高等専門学校 電気電子工学科 教授 佐藤 淳 氏
②「産学連携に於ける組込み開発事例について」
バイスリープロジェクト株式会社 代表取締役 菅野 直 氏

(6) 第6回講演会

日時 平成26年3月7日(金) 15:00~17:20
場所 会津大学講義棟 2階中講義室「M6教室」
参加 43名
講演 ①「オープンソースハードウェアで変わる物作り革命」
株式会社 GClue 代表取締役 佐々木 陽 氏
②「ロボット技術における国際標準化の動向
～機能安全、通信、ソフトウェアプラットフォームなど～」
アップウインドテクノロジー・インコーポレイテッド
代表取締役社長 中村 憲一 氏

3. オープン技術セミナー

(1) ESPR 演習付き解説セミナー

日時 平成25年9月25日(水) 9:30~17:45
場所 仙台商工会議所 1階「小会議室」
後援 独立行政法人 情報処理推進機構 技術本部 ソフトウェア高信頼化センター(IPA/SEC)
参加 11名
内容 組込みソフトウェア向け開発プロセスガイドの演習付き解説セミナー(基礎~中級編)

(2) アジャイル開発実践セミナー

日時 平成26年3月19日(水) 13:00~17:00
場所 東北経済産業局 第一・第二会議室
共催 東北経済産業局
後援 独立行政法人 情報処理推進機構 技術本部 ソフトウェア高信頼化センター(IPA/SEC)
参加 15名
内容 「アジャイル型開発におけるプラティス活用リファレンスガイド」の勘所と活用方法

4. ビジネスマッチング

(1) 組込み産業地域交流プラザ 2013 in 宮城

日時 平成25年7月31日(水) 10:00~20:00(展示会・セミナー)
平成25年8月1日(木) 9:20~11:40(みやぎ復興パーク見学会)
場所 エル・パーク仙台
主催 組込みシステム産業振興機構、みやぎ組込み産業振興協議会、宮城県
出展会員企業
4社、JASA 東北支部(パネル展示)
内容 復興パーク視察による最新技術動向の調査、JASA パネル展示及び、JASA
パンフレットの配布を行った。

(2) 高度ITセミナー ビジネスマッチング in 盛岡

日時 平成26年2月21日(金) 13:00~17:20
場所 ホテル東日本盛岡
主催 TOHOKU 高度ITフォーラム、JASA 東北支部、他
出展会員企業
4社、JASA 東北支部(パネル展示)
内容 JASA パネル展示及び、JASA パンフレットの配布、出席企業との情報交換を行った。

5. ET2013 事業

(1) ET2013「TOHOKU ものづくりコリドー」パビリオン出展社合同会議

日時 平成 25 年 9 月 13 日(水) 14:30～17:20

場所 仙台合同庁舎 6 階 東北経済産業局 第 1・2 会議室

内容 ET2013「TOHOKU パビリオン」出展概要と造形等について、出展社企業と運営事務局とで情報共有を行った。

(2) 組込み総合技術展(ET)2013

日時 平成 25 年 11 月 20 日(水)～22 日(金) 10:00～17:00

場所 パシフィコ横浜

来場者数[TOHOKU パビリオン]

計 5,841 名(参考:前年度 5,851 名)

出展会員企業

4 社、JASA 東北支部(パネル展示)

内容 TOHOKU パビリオン運営サポート、JASA パンフレットの配布を行った。

(3) ET ロボコン 2013 東北地区大会

日時 平成 25 年 9 月 23 日(月) 8:30～19:00

場所 いわて県民情報交流センター(アイーナ)

内容 ET ロボコン東北地区大会の運営(設営・撤収作業等)の手伝い、JASA パンフレット等の配布を行った。

6. その他

(1) ソフトウェアシンポジウム 2013 東北

日時 平成 25 年 5 月 31 日(金) 13:00～19:30

場所 エル・ソーラ仙台 28 階「大研修室」

主催 ソフトウェアテスト技術振興協会、JaSST'13 Tohoku 實行委員会

協賛 組込みシステム技術協会 東北支部

来場者 53 名

内容 基調講演として

「開発を楽しくするソフトウェアテスト」日本 HP 株式会社 湯本 剛氏

(2) とうほく組込み産業クラスタ「総会」

日時 平成 25 年 8 月 29 日(木) 16:00～19:45

場所 東京第一ホテル米沢 二階「ボールルームウエスト」

内容 工場視察による最新動向の調査、講師・会員企業との情報交換を行った。

(3) 山形県次世代コンピュータ応用ネットワーク「設立総会」

日時 平成 25 年 8 月 30 日(金) 14:00～18:30

場所 ゆうキャンパス

内容 JASA 東北支部事業活動の紹介や講師・会員企業との情報交換を行った。

(4) 東北スマートアグリカルチャ研究会「IT 農業オープニングセレモニー」

日時 平成 25 年 9 月 27 日(金) 14:00～17:00

場所 TKP ガーデンシティ仙台勾当台 「ホール1」

内容 組込み技術動向の調査、講師・参加企業との情報交換を行った。

(5) 東北 IT ソリューション EXPO 2013「JASA 基調講演」

日時 平成 25 年 10 月 29 日(火) 13:30~15:00

場所 (仙台)アエル 6階「セミナールーム(2)」

主催 一般社団法人 宮城県情報サービス産業協会(MISA)

共催 一般社団法人 組込みシステム技術協会(JASA)

参加 延べ 110 名(講演①:63 名、講演②:47 名)

内容 講演

①「ウェブディベロッパーから見た組み込み機器向けプラウザへの期待と課題」

株式会社ニューフォリア 取締役 最高技術責任者 羽田野 太巳氏

②「マイクロ・ナノ技術を用いた低侵襲医療機器・ヘルスケア機器の開発」

東北大学 大学院医工学研究科 教授 芳賀 洋一氏

その他

東北支部として、東北大学との講師の調整、集客のための広報活動、講

師聴講者の皆様へ JASA パンフレット等の配布を行った。

(6) 全国組込み産業フォーラム・地域連携セミナー

日時 平成 26 年 1 月 30 日(木) 14:30~18:30(みやぎ復興パーク見学会)

平成 26 年 1 月 31 日(金) 10:00~17:30(15:00~地域連携セミナー)

場所 せんだいメディアテーク 7 階「スタジオシアター」

内容 フォーラムでは JASA 事業活動のプレゼンを行った。

また、全国の組込み産業団体の取り組み・施策について情報交換を行い、

出席団体・企業へ JASA パンフレットの配布を行った。

東京支部

1. 事業概要

東京支部は、組込み技術の普及啓発を事業の柱に、人材育成、会員間交流活性化を推進し、協会の核としての役割に努めている。

一昨年に立ち上げた東京支部ワーキンググループが事業の推進役として機能し、協会活動の活性化に貢献している。

以下の平成 26 年度活動テーマのもと、さらなる新規会員獲得に向けた企画を推進する。

① 会員間交流活性化、② 最新動向の提供、③ 商談機会創出、④ 人材育成

2. 会員の異動状況

支部会員は、平成 24 年度末退会が、正会員 9 社、賛助会員 1 社あった。期中において正会員 6 社、賛助会員 5 社の入会があった。

	正会員	支部会員	賛助会員	計
25 年 4 月	92	3	25	120
26 年 3 月	98	3	30	131

3. 事業実績

(1) 会議

➤ 東京支部ワーキンググループ

各支部事業の内容・企画を検討し、支部事業の円滑な運営に努めた。

- ・ 4月 25日(木) 15:00～18:00 エンベックス 会議室
- ・ 6月 10日(月) 13:00～16:00 JASA 会議室
- ・ 7月 8日(月) 16:00～18:00 JASA 会議室
- ・ 8月 6日(火) 17:00～19:00 エンベックス 会議室
- ・ 9月 11日(水) 16:00～18:00 日本ノーベル 会議室
- ・ 10月 23日(水) 16:00～18:00 日本システム開発 会議室
- ・ 11月 28日(木) 17:00～19:00 エンベックス 会議室
- ・ 1月 7日(火) 16:00～18:00 エンベックス 会議室
- ・ 2月 18日(火) 17:00～18:30 JASA 会議室
- ・ 3月 19日(水) 17:00～18:30 エンベックス 会議室

(2) 支部会議、例会

➤ 支部会議(第一部:例会/講演会 第二部:交流会)

- ・日時:平成 25 年 5 月 30 日(木)13:30～19:00

【第一部 例会/講演会】 13:30～16:45 参加者:56 名

・会場 :新宿野村ビル 48F 野村コンファレンスプラザ「コンファレンスルーム A」

・次第

- 平成 24 年事業報告・収支決算について【報告】
- 平成 25 年度事業計画・収支予算について【報告】
- 新入会員紹介(4 社)
 - ・株式会社 インフォテック・サーブ
 - ・株式会社 クナイ
 - ・株式会社 メタテクノ
 - ・株式会社 日立情報制御ソリューションズ
- 講演会

「オープンソースムーブメントが創り出す新たなビジネスモデル」

～差別化のみが生きる道～ (Differentiate or Die)

特定非営利活動法人 LPI-Japan 理事長 成井 弦 氏

【第二部 交流会】 17:15～19:00 参加者:50 名

・会場:バリラックス ザ ガーデン新宿

➤ 支部例会(第一部:講演会 第二部:納涼懇親会)

- ・日時:平成 25 年 8 月 29 日(木)

【第一部】 15:00～17:15 参加者:72 名

・場所:東実年金会館 4 階 会議室

・次第

- 企業にとって今後必要となるメンタルヘルス対策
- 東京都中小企業振興公社の紹介
- 講演会

「組込みシステムに対するサイバー攻撃の脅威と対策の課題」

S&J コンサルティング(株) 代表取締役 三輪 信雄 氏

- 新入会員紹介(2 社)
 - ・株式会社エクスマーション
 - ・テクマトリックス株式会社

【第二部 納涼懇親会】 17:45～20:15 参加者:55 名

➤ 支部例会(第一部:講演会 第二部:忘年会)

・日時:平成 25 年 12 月 6 日(金) 14:30～20:00

【第一部 講演会】 14:30～17:30 参加者:44 名

・場所:TKP 赤坂ツインタワー カンファレンスセンター ホール 10A

・次第

- 講演会「事業再生にいたる企業と経営革新で生き残る企業」

（株）ハンプティ 代表取締役 宮田 貞夫 氏

- 「キャリア形成促進助成金」制度の概要について

厚生労働省職業能力開発局 育成支援課

キャリア形成促進係長 井上 靖治 氏

「キャリアアップ助成金」制度の概要について

厚生労働省職業能力開発局 実習併用職業訓練推進室

ジョブカード係長 秦 道子 氏

- 「情報政策の目指すビジョンと実現に向けた取組」

経済産業省商務情報政策局 情報処理振興課

課長補佐 松本 正倫 氏

- 新入会員企業紹介／会員企業製品/サービス紹介

・(株)NS・コンピュータサービス【新入会企業】

・(株)ユビキタス【製品紹介】

・(株)コア【製品紹介】

【第二部・忘年会】 18:00～20:00 参加者:51 名

・会場 :ザ・レギヤン・クラブハウス赤坂

(3) 各種セミナー

➤ 平成 25 年度 フレッシャーズセミナー

・日時:4 月 3 日(木)～4 日(金) 9:00～17:00(計 14 時間)

・場所:東実年金会館 4 階会議室

・参加者: 8 社 27 名

・内容:

・ビジネスマナー(講義・実習)1.5 日

講師:(株)オイコス メンター 大坪 隆志 氏

・「組込みシステム入門講座」 0.5 日

・「組込みの世界、こんな話、あんな話」

講師:(株)クナイ 星 光行 氏

・「組込みシステムの基礎知識」

講師:(株)グレープシステム 宮下 光明 氏

➤ 若手社員のための 社会人基礎力講座

・日時:8 月 1 日(木)～2 日(金) 10:00～17:00(計 12 時間)

- ・場所:東実年金会館 3 階会議室
- ・参加者: 5 社 10 名
- ・対象者:入社 1~3 年目位の若手社員
- ・講師:(株)スキルメイト 宇野 和彦 氏

➤ 若手社員のための 社会人基礎力フォローアップ講座

- ・日時:10 月 29 日(火)10:00~17:00
- ・場所:JASA 会議室
- ・参加者: 5 名
- ・対象者:8/1~2 参加者
- ・講師:(株)スキルメイト 宇野 和彦 氏

➤ ICT マーケティング研修=ベーシック(基礎)一日コース=

- ・日時:3 月 25 日(火) 9:00~18:30
- ・場所:東実年金会館 4 階 会議室
- ・参加者:13 社/22 名
- ・講師:オーバルワン(株) 菱沼 勇人 氏

(4) 見学会

- ・日時:7 月 4 日(木) 9:30~18:30
- ・見学先:(産業技術総合研究所)
 - ・サイエンス・スクエア つくば
 - ・RT ミドルウェア研究所
 - ・生活支援ロボット安全検証センター
- ・参加人数:23 名

(5) その他 交流会

➤ 異業種交流セミナー

- ・日時:10 月 26 日(土)13:00~17:30
- ・場所:志縁塾セミナールーム「ふらっと」
- ・参加者:17 名(男性:14 名 女性:3 名)
- ・内容: 講師・杉本明穂氏による「トレーディング・ゲーム」を実施

中部支部

事業概要

新支部長、新事務局で迎えた最初の年、会員に魅力のある活動をめざし、一味違う内容とした。例えば、台湾を訪問した海外視察では単なる展示会視察だけではなく、地元企業や研究所を訪問し、英語で参加会社の自己紹介や先方の研究内容紹介を通して、海外ビジネスの一端を経験できた。また、アジャイル研究会では研究活動はもちろん、若い技術者の情報交換ならびに協業推進の場として機能し、参加企業2社が新しいビジネスを開始するなど副次的な成果も現れた。研究成果は ET 展で発表し好評を博した。

今後も会員に魅力ある JASA 中部としての活動を工夫していく。

事業実績

1. 会議

1)支部会議・懇親会

日時 5月22日(水) 16:00～20:00
場所 ザ サイプレス メルキュールホテル 名古屋
参加人数 支部会議 12名
懇親会 32名 (中堅管理職研修参加者も含む)
支部会議 16:00～16:50

議題

- a 平成24年度事業実施報告
- b 平成24年度会計報告
- c 平成25年度事業計画案
- d 平成25年度予算案
- e 平成25年度体制案
- f その他

2)定例会

a)第1回

日時 4月10日(水) 15:00～17:00
場所 三幸電子株式会社 会議室
出席者 9名
・25年度の体制、方針や行事などを検討
・海外視察を台湾と決定

b)第2回定例会

日時 8月29日 15:00～17:00
場所 三幸電子株式会社 会議室
出席者 9名
8月までの活動のまとめと後半の活動予定などを検討
・視察を岩手県 工業技術センタに決定
・来年度海外視察を フィリピン、マレーシア、ベトナムで検討。参加者を早期に
集め、参加者の事前検討で訪問地や日程等を決める方式を試行

c)第3回定例会

日時 12月5日 17:00～18:30
場所 薦茂
参加者 9名
・26年度予算検討とアジアイル研究会のETでの発表内容の説明
18時半より忘年会を兼ねた懇親会を実施
参加者 21名

2. 産業観察

1) 海外 台湾 6月6日(木)～9日(日)

参加者 会員 8名 会員外 2名 事務局 1名

Computex Taipeiの開催期間に台北を訪問し、Computex Taipei 及び現地企業を訪問し情報交換を行った。
・今回初めて会員外企業2社が参加して名実ともに公益事業となつた。

- ・今回初めて現地企業訪問(泰山電子と工業技術院)した。参加各社の紹介を英語でするなど参加企業の積極性が見られ非常に有意義であった。特に工業技術院の視察ではショールームの紹介やADAS関係の研究内容の紹介があるなど、研究規模の大きさや最新技術を直に触れることができた。
- 2) 国内 盛岡 11月8日～9日
参加者 10名
岩手大学にある盛岡市産学官連携研究センターと岩手県工業技術センター訪問予定であったが飛行機がキャンセルになり岩手県工業技術センターのみの訪問となつた。漆原技術本部長を交え懇親会も行った。
3. 技術セミナー
- 1) 第1回 「マルチコアマイコンの動向」
日時 8月5日(月) 14:00～16:50
場所 ウインクあいち 会議室 1107
講演 I
マルチコア向けソフトウェア開発の基礎と最新動向
名古屋大学大学院情報科学研究情報システム学専攻 教授 枝廣 正人 氏
講演 II
マルチコアマイコンの開発動向
ルネサスエレクトロニクス(株)
自動車情報システムソリューション部 部長 吉田正康 氏
参加者 セミナー 40名 (内会員外 4社 11名)
講演後懇親会も実施
 - 2) 第2回 「組込みソフト開発の新たな潮流」
日時 10月3日(木) 13:10～16:50
場所 ウインクあいち 903会議室
・講演 I 13:10～14:10 「組込みだからこそアジャイルやろうよ！」
講師 パナソニック(株) 前川 直也 氏
・講演 II 14:15～15:15 「XDDPから見たアジャイル開発」
講師 (株)デンソー技研センター プロジェクトマネージャー 古畑 慶次 氏
・パネルディスカッション 15:30～16:50
「組込みソフト開発現場の現状と今後」
参加者 45名
講演後懇親会も実施
 - 3) 第3回 「ADASの最新動向」
日時:3月11日(火) 13:10～16:50
場所:東桜会館
・講演 I 14:00～15:30
「先進安全自動車のコア技術=ADASの動向」
講師 e-SYNC 村松 菊男 氏
・講演 II 15:45～17:15
「運転支援・自動運転の研究開発動向と自動運転自動車の開発実例」
講師 金沢大学 講師 菅沼 直樹 氏
参加者 35名
講演後懇親会も実施

4. マネジメントセミナー

1) 第1回

日時 5月22日(水) 14:00~16:45
場所 ザ サイプレス メルキュールホテル 名古屋
講師 名古屋市立大学経済学部 教授 奥村哲史 氏
演題 「中堅管理者のためのマネジメントスキル」

—技術者でもわかるネゴシエーション・組織マネジメントの勘所—

参加者 33名

2) 第2回

日時 10月29日(火) 14:30~16:40
場所 ウインクあいち 1108 会議室
講師 名古屋工業大学 准教授 徳丸 宜穂 氏
テーマ 「製品開発と人材マネジメントの日中韓比較:MOTの観点から」
参加者 30名(中堅管理職研修参加者も含む)
講演後懇親会も実施

3) 第3回

日時 3月6日(木) 14:30~16:40
場所 東桜会館
講師 名古屋大学大学院 経済学研究科 准教授 犬塚 篤 氏
テーマ 「考える組織を目指す」
参加者 37名(中堅管理職研修参加者も含む)
講演後懇親会も実施

5. アジャイル研究会

毎月第2水曜日に15時から17時まで参加会社の会議室を持ち回りで使用し開催。
11月のETで「アジャイルを請負型の開発体制で取り入れる提案」を纏め発表し、好評
をはくした。26年度も継続することを決め、有識者にアドバイザーを依頼

6. ボーリング大会

日時:平成25年10月17日(木) 18:30より
場所 スポルト名古屋
参加者 67名
・会員各社社員が参加できる場として、懇親会も含め大いに盛り上がった。来年度は
年金基金の補助がなくなるが、工夫して継続をしたい。

北陸支部

事業実績

1. 北陸支部会議の開催

・5月17日(金)午後6時から 北陸支部会議を開催した。

平成24年度の事業実施報告・決算報告、平成25年度の事業計画・収支予算案の報告及び
会員増強・海外視察研修についての審議を行った。

2. 海外視察研修

台湾経由による中国ビジネス展開の仕組み及び台湾におけるET・ITの現状についての視察研修を実施した。

- ・実施日:平成25年9月12日(木)～15日(日)
- ・視察機関:富士通台湾、Fuchi Electronics Co. Ltd (台湾 台北市)
- ・参加者:6名。

3. 福井県情報システム工業会理事会への参加

福井県情報システム工業会理事会に参加し、以下の検討・要請・報告等を行った。

- ・4月12日(金)
 - 行政との意見交換会についての実施内容検討。
- ・5月23日(木)
 - 福井県経済界サマースクールへの参加要請。
 - ふくいソフトウェアコンペティションへの協力要請。
- ・7月25日(月)
 - 行政との意見交換会実施結果の報告。
 - 若手IT経営者との意見交換会の実施検討。
 - 技術者向け講習会(IT技術者育成講習会)の実施検討。
 - 遠隔バックアップセンター接続サービス廃止に伴なう経過等の説明。
- ・10月9日(水)
 - 福井県情報システム工業会が主催し、北陸地域情報ネットワーク協議会が共催する「IT技術者育成講習会」にパネリストとして参画。
- ・12月5日(木)
 - 福井県が主催する「ふくいの工業技術を活用した農業の成長産業化研究会」設立に関する説明会及び参加を要請。
- ・2月25日(火)
 - 行政機関等からの要望等について説明し、協力を要請。
 - ・福井大学との产学連携強化。
 - ・福井県産業労働部から「地域のIT関連産業の成長力底上げ事業及びITインキュベート事業」への協力・参加。
 - ・経済産業局から「M2Mセキュリティ及びOSS活用」等に関する人材育成。
- 福井県情報システム工業会が主催する「視察研修」に参加した。
- ・視察研修機関:福井 InfoAxis データセンター。
- ・北陸支部会員 3名。

4. 福井県IT産業団体連合会役員会への参加

- 福井県IT産業団体連合会役員会に参加し、以下の検討・要請・報告等を行った。
- ・7月8日(月)福井県IT産業団体連合会が主催する「行政との意見交換会」に参加した。

- 北陸支部会員 3名。
・12月3日(火)
ITフォーラムの今後の開催方針についての検討。
5. 「ふくいITフォーラム2013」への後援
福井県IT産業団体連合会が主催する「ふくいITフォーラム2013」
(10月16日(水)～18日(金) 福井県産業会館1号館)に後援参加した。
入場者数は、20, 233名。
-

近畿支部

事業実績

支部会議(1)

日 時 : 4月24日(水)15:00～16:00
場 所 : 大阪産業創造館 5階 研修室C
出席者 : 27名
議題・内容: 1. 平成24年度事業報告 2. 支部役員改選 3. 平成25年度事業計画

支部会議(2)

日 時 : 5月22日(水)14:00～15:10
場 所 : 大阪産業創造館 6階 会議室D
出席者 : 20名
議題・内容 : 市場、技術ワーキンググループ活動動向、ET West 2013 進捗状況報告
KISA ビジネスカンファレンス案内

〈5月会員月例会〉

内 容 : 今後の支部活動についての意見交換会

〈近畿経済産業局・情報政策課との意見交換会〉

内 容 : 関西情報センターより「今年度戦略事業について」、近畿経済産業局より
「ヘルスケア組込み実態調査について」

支部会議(3)

日 時 : 7月24日(水)17:30～18:00
場 所 : 京料理 さつき
出席者 : 19名
議題・内容 : 総務、市場、技術ワーキンググループ活動動向、ET West 2013 報告
KISA ビジネスカンファレンス報告、社員総会報告

支部会議(4)

日 時 : 9月25日(水) 14:00～14:45
場 所 : 大阪産業創造館 6階 会議室D
出席者 : 21名
議題・内容 : 総務、市場、技術ワーキンググループ活動動向、タイ投資委員会との
ミーティング報告、ET ロボコン 2013 関西地区大会報告、ET West 2014
案内、本部報告

〈9月会員月例会〉

内 容:新入会員のアドソル日進株式会社と、株式会社ソフトムより事業概要の紹介

〈近畿経済産業局・情報政策課との意見交換会〉

内 容:「新連携支援事業について」解説

支部会議(5)

日 時 : 11月27日(水) 14:00~15:50

場 所 : 大阪産業創造館 6階 会議室D

出席者 : 23名

議題・内容 : 総務、市場、技術ワーキンググループ活動動向、KISA 知財セミナー案内、KISA 新春 IT 振興フォーラム並びに賀詞交歓会案内

〈近畿経済産業局・情報政策課との意見交換会〉

内 容:「新連携支援事業について」さらに詳しく解説

支部会議(6)

日 時 : 2月26日(水) 14:00~14:55

場 所 : 大阪産業創造館 6階 会議室D

出席者 : 17名

議題・内容 : 総務、市場、技術ワーキンググループ活動動向、平成26年度支部事業計画報告、KISA 賀詞交歓会報告、KISA ビジネスカンファレンス案内、ET West 2014 案内、ET ロボコン 2014 案内、本部報告

〈2月会員月例会〉

内 容 : NPO 法人 ICT 近畿会紹介と IT コーディネータについて

〈近畿経済産業局・情報政策課との意見交換会〉

内 容 : 中小企業基盤整備機構より「中小機構の支援策について」
情報政策課より「補正予算及び来年度予算のトピックス」

・各種セミナー

※第1回近JASAセミナー(ET West 2013 テクニカルセッション受講)

日 時 : 6月13日(木)、14日(金)

場 所 : インテックス大阪

参加者 : 延べ11名

※第1回市場開発・技術交流フォーラム

日 時 : 7月11日(木)15:00~21:00

場 所 : 株式会社たけびし

出席者 : 13名

議題・内容 : たけびしフェア見学

※第1回総務交流フォーラム

日 時 : 7月26日(金)17:30~21:00

場 所 : なにわ花子

出席者：10名
議題・内容：奥新支部長の「ベンチャー精神」についてのお話、
フォーラムメンバーとの交流

※第2回近JASAセミナー
日 時：8月28日(水)13:30～16:00
場 所：大阪産業創造館 5階 研修室C
出席者：16名
議題・内容
「.netMicroFramework や mrubyなどを利用した新しい組込みシステム開発」
講師：奈良工業高等専門学校 准教授 土井 滋貴氏

※第3回近JASA秋の特別セミナー
日 時：10月23日(水)14:00～17:00
場 所：大阪産業創造館 5階 研修室E
出席者：49名
内 容：「円滑なコミュニケーションをデザインする」
講師：株式会社電通テック 東 秀和氏

※第3回近JASA秋の特別セミナー懇親会
日 時：10月23日(水)18:30～20:50
場 所：ファンタイム ボニーラ
出席者：66名
内 容：総務・市場・技術各ワーキンググループ合同懇親会

※第2回総務交流フォーラム
日 時：11月14日(木)15:30～17:00
場 所：大阪産業創造館 6階 会議室C
出席者：12名
内 容：「IT企業におけるパワハラ・精神疾患への対応実務」

※第4回近JASAセミナー
日 時：1月22日(水)14:00～17:00
場 所：大阪産業創造館 5階 研修室C
出席者：18名
内 容：「リアルタイムOSの初めの一歩と最近の話題」
講師：イーソル株式会社 宿口 雅弘氏

※第3回総務交流フォーラム
日 時：2月21日(金)15:30～17:00
場 所：大阪産業創造館 6階 会議室C
出席者：9名
内 容：「生命保険の基本」

※第2回市場開発・技術交流フォーラム
日 時：3月13日(木)15:00～21:00
場 所：株式会社日新システムズ

出席者：19名

議題・内容：会社概要、事業内容紹介

・視察 〈海外〉

日 時：6月5日(水)～8日(土)

場 所：台湾(台北)

参加者：16名

目的・内容：Computex Taipei 2013 視察

・視察 〈国内〉

日 時：10月4日(金)～5日(土)

場 所：株式会社デンケン

参加者：13名(近畿支部4名)

目的・内容：本社、ソーラーフーム視察

・展示会

日 時：6月13日(木)、14日(金)10:00～17:00

場 所：インテックス大阪

来場者数・出展企業：5,812名/144社・団体、169小間

内 容：組込み専門技術展／カンファレンス

・その他

※新入社員ビジネスマナー研修講座(関西電子情報産業協同組合と共催)

日 時：4月4日(木)、5日(金)9:30～17:00

場 所：大阪産業創造館 5階 研修室D

参加者：JASAより5名

目的・内容：新卒社員が企業人・社会人として活躍するために、身につけて
おくべきビジネスマナーに関する基本を習得するため開講

※近畿情報システム産業協議会ビジネスカンファレンス

日 時：6月19日(水)10:00～19:30

場 所：大阪科学技術センター 7階 701号、702号会議室 8階 中小ホール

参加者：160名(JASAより21名)

目的・内容：加盟7団体の会員企業が集まり、これまで付き合いがない企業と交流
することにより、新しいビジネスチャンスを創造するため実施
24社がプレゼンテーションを行い、発表企業と聴講企業とが個別に面談

※タイ投資委員会とのミーティング

日 時：8月8日(木)10:00～12:00

場 所：タイ総領事館内 タイ投資委員会会議室

参加者：10名

目的・内容：JASA活動紹介、近畿支部会員企業総会、タイ投資委員会からタイの
投資奨励政策と投資機会について説明

※ETロボコン2013関西地区大会

日 時：9月22日(日)、23日(月・祝)

場 所：京都コンピュータ学院 京都駅前校

参加者：競技参加者 148 名(30 チーム)、見学者 103 名
内 容：競技会(デベロッパー部門、アーキテクト部門)、モデリングワークショップ

※KISA 知財セミナー

日 時：12 月 10 日(火)
場 所：大阪科学技術センター 405 号会議室
出席者：25 名
内 容：「アメリカの知財動向から学ぶ日本の IT 戦略」
講師:特許弁護士 Harris A. Wolin 氏

※KISA 新春 IT 振興フォーラム並びに賀詞交歓会

日 時：1 月 10 日(金)
場 所：大阪科学技術センター 大ホール、中ホール、小ホール
出席者：新春 IT 振興フォーラム:202 名(内 JASA21 名)、
賀詞交歓会:226 名(内 JASA21 名)
内 容：新春 IT 振興フォーラム：
「センサ・ネットワーク技術を統合したサイバーシステムの未来」
講師:奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授 安本 慶一氏

九州支部

・4月度支部会議

日 時：平成 25 年 4 月 11 日(木)
場 所：九州産業技術センター
出席者：支部員6名、(株)エフェクト 光安 氏、事務局
議題・内容

1. 報告事項

- ・平成 24 年度決算について
- ・平成 25 年度事業計画及び予算について
- ・JASA九州支部協業セミナー(2/15 開催済)について
- ・ETロボコン2013について

2. その他

2. 福岡市組込みソフト開発応援団総会

日 時：平成 25 年 5 月 21 日(火)
場 所：福岡SRPセンタービル2階 研修室1

出席者：松尾支部員

議題・内容

- (1)平成24年度事業報告・収支決算報告について
- (2)平成25年度事業計画案・収支予算案について 等

3. 7月度支部会議

日 時：平成 25 年 7 月 18 日(木)
場 所：九州産業技術センター

出席者：支部員7名、ふくおかIST 片平氏、九州大学 福田先生、鈴木事務局長、事務局

(4) 議題・内容

1. 報告事項

- ・第27回社員総会について
- ・新規加入企業紹介 - 株式会社エフェクト
- ・10月度支部会議について
- ・協業セミナーについて

2. その他

- ・全国システムハウス厚生年金基金スポーツ交流会について

4. ET ロボコン 2013 九州地区大会 第一回試走会(運営主体:NPO 法人 QUEST)

日 時：平成25年7月20日(土)

場 所：九州産業大学

議題・内容：試走会

5. ET ロボコン 2013 九州地区大会 第二回試走会(運営主体:NPO 法人 QUEST)

日 時：平成25年8月31日(土)

場 所：九州産業大学

議題・内容：試走会

6. ET ロボコン 2013 九州地区大会 (運営主体:NPO 法人 QUEST)

日 時：平成25年9月14日(土)～15日(日)

場 所：九州産業大学

出席者：西支部長、松尾支部員、事務局

議題・内容

9月14日

- ・競技大会 チーム出席人数 134人、見学者人数 90人
- ・懇親会 出席 63人

9月15日

- ・ワークショップ チーム出席人数 87人

7. 10月度支部会議(企業見学)

日 時：平成25年10月4日(金)～5日(土)

場 所：株式会社デンケン

出席者：奥近畿支部長他計4名、本部4名、支部員6名

議題・内容

1. 株式会社デンケン 施設見学

- ・事業説明
- ・ソーラーパネル発電施設見学 等

2. 懇親会

8. JaSST '13 Kyushu ソフトウェアテストシンポジウム 2013 九州【協賛】

～すべての技術者・管理者に夢と元気を！～

日 時 : 平成 25 年 11 月 1 日(金)
13:00 ~ シンポジウム
18:00 ~ イブニングセッション KAEDAMA

場 所 : 福岡 SRP センタービル

議題・内容

- ◆基調講演 「未来の話をしよう」
【講演者】 榊原 彰 氏(日本アイ・ビー・エム株式会社)
- ◆招待講演 「これからの"バグ"の話をしよう」
【講演者】 細川 宣啓 氏(日本アイ・ビー・エム株式会社)
- ◆招待講演 「ちょっと明日のテストの話をしよう」
【講演者】 西 康晴 氏(電気通信大学)

9. 1月度支部会議

日 時 : 平成 26 年 1 月 9 日(木)
場 所 : 九州産業技術センター
出席者 : 支部員4名、母里課長代理、事務局

議題・内容

1. 報告事項
 - ・10 月度支部会議(企業見学会)について
 - ・協業セミナーについて
2. 検討事項
 - ・来年度予算について
2. その他

10. JASA 九州交流セミナー IT×医療:市場参入へ向けて!

日 時 : 平成 26 年 2 月 19 日(水)
14:30 ~ セミナー
17:50 ~ 交流会

場 所 : JR 博多シティ会議室 9F

議題・内容

- ◆基調講演 「情報誘導型インテリジェント治療システムの構築」
【講演者】 橋爪 誠 氏
(九州大学医療イノベーションセンター長
九州大学大学院医療研究員先端医療医学講座)
- ◆講演① 「ICT を利用した未来型衣料の取り組みと展望～あじさいネット@長崎～」
【講演者】 松本 武浩 氏
(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療情報学 准教授)
- ◆講演② 「ロボット医療機器・先進福祉機器の開発について」
【講演者】 木原 由光 氏(ロボファーチャー株式会社)

11. IT 融合システムセミナー【共済】

日 時 : 平成 26 年 3 月 4 日(火)

16:00～ セミナー

17:30～ 交流会

場 所：福岡合同庁舎本館1階 九経交流プラザ

議題・内容

◆演題① 「JASA における組込みシステムに関する取り組み」

【講演者】門田 浩 氏

(一般社団法人 組込みシステム技術協会(JASA) 専務理事)

◆演題② 「組み込み開発のこれからと、組込み新世代『軽量 Ruby』」

【講演者】石井 宏昌 氏(株式会社福岡CSK サービスイノベーション課長)

事業報告の附属明細書

平成 25 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、作成しない。